

077576-000-2

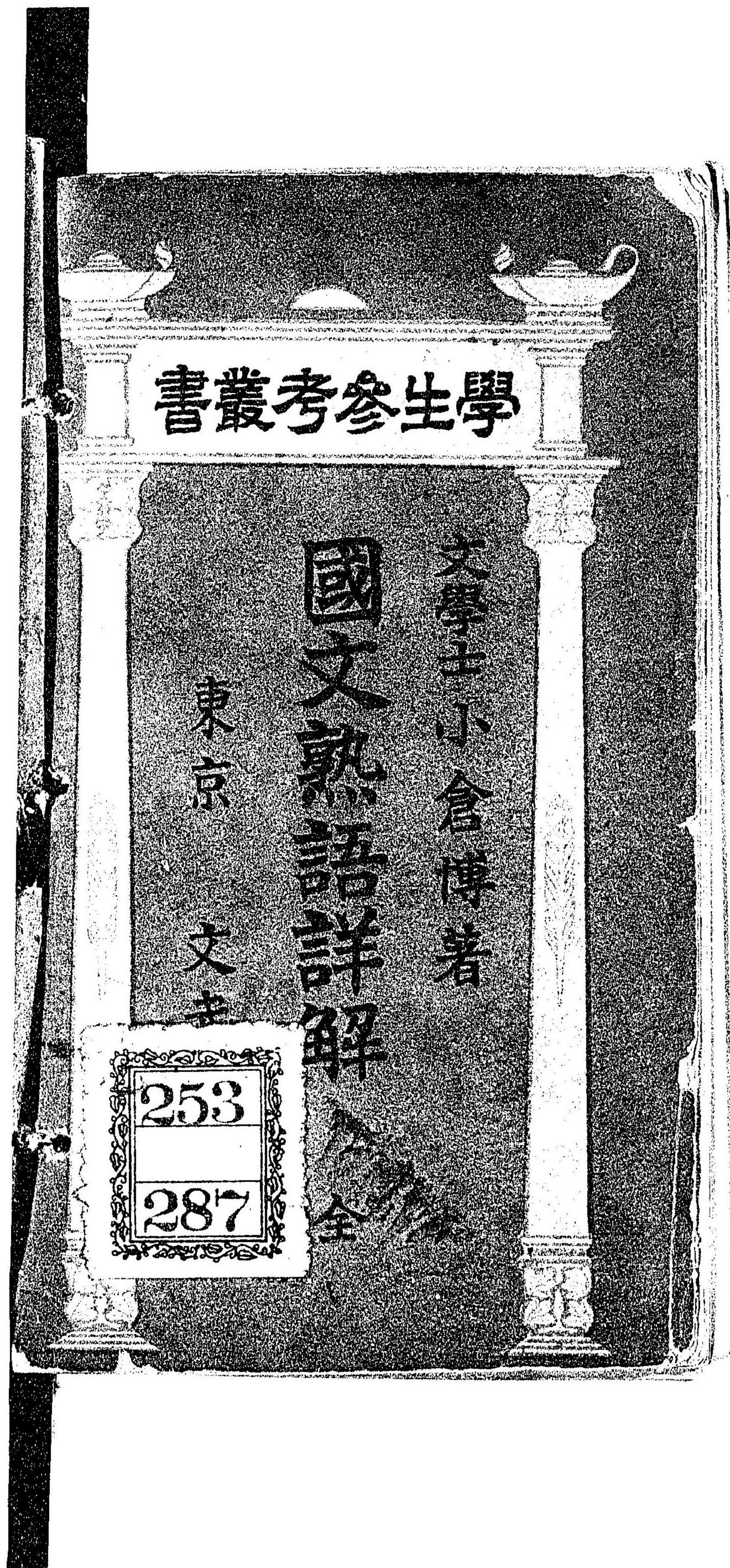
特54-929

国文熟語詳解

小倉 博/著

M39. 11

DAC-0926



學士參考叢書

國文熟語詳解

文學士小倉博著

東京

文叢

253

287

凡 例

- 一. 本書は中學生が國語研究の參考に供せんが爲専ら其熟語をなせるものに就き註釋を加へたるものとす。
- 二. 索引は五十音順に従へり。
- 三. 漢語等に起源せる一種の熟語中之に對する假字の長きに過ぐるものある時は漢字其儘を索引に出し傍に假字を附したるものあり凡て冗長なるを避けむが爲なり。

明治三十九年十月

著者識す

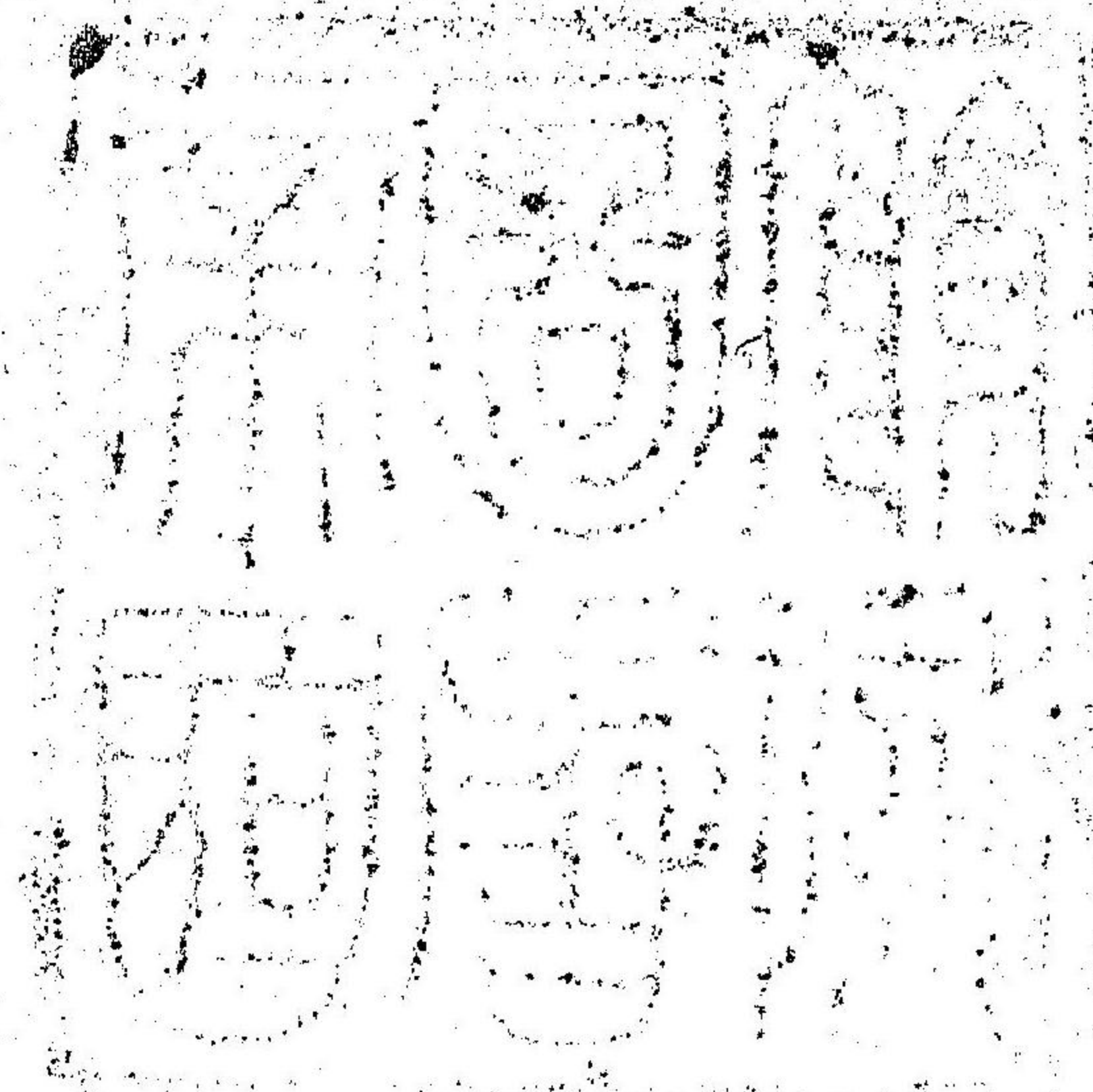
國文熟語詳解目次

あ	1
い	8
う	15
え	20
お	21
か	27
き	33
く	36
け	40
こ	42
さ	49
し	55
す	63
せ	65
そ	69
た	72

ち.....77
つ.....79
て.....82
と.....86
な.....91
に.....96
ぬ.....98
ね.....98
の.....100
は.....101
ひ.....108
ふ.....115
へ.....121
ほ.....121
ま.....125
み.....131
む.....139
め.....141

も.....144
や.....150
ゆ.....155
よ.....159
ら.....163
り.....165
る.....166
れ.....166
ろ.....161
わ.....168
ゐ.....171
ゑ.....172
を.....173

終



國文熟語詳解

女學士 小倉 博 著

あ

- あいぎやう。愛敬。かみゆい處ある。
- あうぎ。奥義。奥深き秘説。奥深き佛。
- あうん。阿吽。佛經の語。息の出入の稱。
- あがき。足搔。馬が前足にて地を搔く事。
- あかだな。闕伽棚。佛に奉る水を載せ置く棚。
- あかつきふから。曉深。曉早く。夜明に。
- あかぬこと。不飽事。不自由な事。
- あかねさす。茜刺。赤根刺。日晝東等の枕詞。
- あかばこり。容易に開かぬ。
- あからさま。明なる様に。卒爾に。かりそめに。
- あからめもせて。外見もせずに。
- あかりしやうじ。明障子。今の所謂障子。

あきかせたつ。 秋風が吹き初める。

あきさぶ。 秋深くなる。

あきつす (あきつしま)。 秋津洲。

日本國。

あくるとし。 明年。翌年。

あげづ。 蜻蛉。やんま。とんぼ。

あげつらふ。 評論する。

あげまき。 總角。昔の小兒の髪の結方。

あげみづ。 籠城の時他より水を引く事。

あさきよめ。 朝清。朝に起きて洒掃する事。

あさげ。 朝食。朝。

あさぢ。 浅茅。茅のまばらに生ひたるもの。

あさぢがはら。 茅の疎に生ひたる原。

荒野。庭などの荒れたる形容。

あさなぎ。 朝和。朝に海上の風やみたる事。

あさひこ。 朝日子。旭。

さあほらげ。 朝朗。朝に空が少しく明るなる事。

あさまだき。 朝早く。

あざわらふ。 嘲り笑ふ。

あしがちる。 葭が散る。難波の枕詞。

あしごまにいふ。 悪しきが如くに言ふ。

あししろ。 足代。足場。

あしずり。 足を地に摺る事。口惜しがる状。

あしたゆし。 足勞れる。

あして。 葦手。和歌を書くに葦の亂れたる様を書く事。

あしのけ。 脚の疾。脚氣。

あしひきの。 足引の。山の枕詞。

あしをそらに惑ふ。 足を空に向ける程大いにいそがはしく驅けまはる事。

あせばつ。 變り果てる。零落してしまふ。

あだかもよし。 恰好。丁度よき時。

あだごと。 徒事。戯れ事。

あだしところ。 他心。誠のない心。

あだつきす。 徒衝。突き損ずる。

あだなみ。 徒波。人の心の變り易きを波に譬ふ。

あだなり。 徒。無駄だ。

あだなるすさび。 徒遊。つまらぬ戯れ

事。
あだにすどす。徒らに過す。無爲に過す。
あだや。徒矢。射損じた矢。
あたらしきわざ。惜しい事柄。
あたりまどふ。大いに狼狽する。
あたをむすぶ。結讐。仇を造り争ふ事。
あぢきなきすさび。面白からぬ業。
あつぱれなる人。立派な人。感ずべき人。
あづまからげ。關東に行はれたる裾の褰げ方。
あづまざま。關東の方。鎌倉幕府。
あづまぢのたび。東路旅。關東への旅行。
あづまの龜の鏡。鎌倉幕府の裁判。
あづまのくにみ。東國見。關東の國見物。
あづまをのこ。東男。關東の武士。
あてにする。當。豫期する。
あてひと。貴人。
あてやか。高貴なる狀に。品よく。
あたとふのりの燈。後世を吊ふ燈火。

あとぶつ。阿堵物。金錢。
あない。案内。
あながちに。強ひて。
あなた。貴君(汝の尊稱)。彼方(方向)。
あはし。淡。薄い。あつさり。
あはや。今や(危ぶむ意)。
あひうづなふ。承引する。
あふこ。合ふ木。枌。てんびん棒。
あふのく。空を向く。仰ぐ。
あへらくおもへば。逢つた事を思ふと。
あまあし(あめのあし)。雨脚。雨の降る様條の如くなる事。
あまがける。天翔。空中を翔つて行く事。
あまたたび。數度。
あまつかせ。天之風。空を吹く風。
あまつさへ。剩。其上。
あまつひつぎ。天津日嗣。天位。天皇の御位。
あまのをぶね。海人の小舟。漁夫の舟。
あみだわり。阿彌陀割。阿彌陀の後光が一點より四方に光輝を放つ様にて町の割

方が非然ならずして不規則な事に言ふ。

江戸は阿彌陀割京都は碁盤割。

あのごとく。如案。豫想の如く。

あめの(が)した。天下。

あめつち。天地。世界。

あやしげなる。賤しい。粗末な。

あやなし。無文。物の差別ない事。わけ

別らぬ。

あやにく。生憎。不幸にも。意地わるく。

あやしき。錦色燦爛。

あやめ。差別。黑白。

あらいそなみ。荒磯浪。荒い磯邊の浪。

あらがね。粗金。製練せぬ金屬。

あらがねの。土と言ふ語の枕詞。

あらし。殯宮。假に死骸を置く所。

あざらむ後の世。死後。

あらし。あるまい。

あらせうしや。笑止。嗚呼困つた。當

感した事の意に言ふ。

あらたなる御誓。靈驗あらむとの誓。

あらたまの。新玉。年月日夜春等の枕詞。

あらての兵士。新手。疲勞せぬ新勢。

あらぬかたば。別の不具者。

あらぬころつかひ。無用な心配。

あらら。荒野。

あらまし。あらう。大抵。豫想。

あらましきかせ。荒々しい風。

あらましごと。將來の計畫。荒々しい
舉動。

ありあけのつき。有明月。夜明にまだ
残れる月。

ありあふ。其場にある。

ありありて。在在。そのままにありて。

ありか。在處。所在。

ありがたし。稀である。感謝すべし。

ありきたがふ。歩違。行き違ふ。不在。

ありていに。有體。有りの儘に。

ありと(し)ある。あらゆる。凡ての。

ありふれた。普通にある。

あるじまうけ。饗應をする事。

あるじ。主。あるじ。

あわてふためら。大に立ち騒ぐ事。狼
狽。

あゐをたたふ。湛藍。藍色が冷たい。

あをうなばら。青海原。青々とした大海。
あをくものたなびく。青雲の棚曳く。

極めて遠い方。

あきによし。青丹吉。奈良の枕詞。

あきひとぐさ。青人草。人民。蒼生。

あをへどをつく。苦しい嘔吐をする。

あをみわたる。青渡。一般に青い色になる。

い

いらそく。有職。學者。ものしり

いかける。射掛。矢砲彈等をあびせかける。

いかさま。如何なる様に。[然り]。[實に尤も]。

いかづち。雷。

いかりを。怒りたける男。

いきうし。行憂。行く事がつらい。

いきごみ。意氣込。豫期。決心。

いきとほろしき。心不平にして憂ふる状。

いきのを。息緒。息のつづき。命。

いきまろ。息巻。急いで息つき荒くなる事。

いらそ。幾何。どれ程。

いらそばく。幾何。どれほど。

いらひさし。幾久。非常に年月が長い。

いらゐさくゐのみづ。生井榮井の水。井の美稱(祝詞にあり)。

いさぎよしとせず。不爲潔。心地よからず思ふ。

いさご。砂子。すな。

いざたまへ。サア來給へ。

いしくも。美事に。巧に。上手に。

いしびや。石火矢。大砲。

いすかの嘴。萬事思ふ通りに行かぬ事。

いそぢあまり。五十餘。

いそまくら。磯枕。海岸を枕として寝る事。

いたつき。病氣。骨折る事。

いたで。痛手。重傷。

いたやののき。板屋軒。板葺の家の軒。

いたりふかし。詣深。蘊奥を極める。造詣が深い。

いちじのでき心。一時の出来こころ。

不圖起つた思ひつき。

いちじるし。著名。有名。

いちぢやう。一定。必定。必然。

いちばんやり。一番槍。眞先に槍にて
敵陣に突入する事。

いちばやく。逸速。急しく早く。鋭く。

いちまう衆^か盲^まを引く。一人誤を傳へ眼
識ない衆人悉く之に従ひ誤るを言ふ。

いちもつ。逸物。犬馬刀の勝れた物。

いちもん。一門。一族。同姓の族。

いちもん^と字^に進む。直往邁進する。

いちらし。可愛相だ。

いちるの望。一縷の望。少許の望。

いつこはあれど。何處有。どこと言ふ
處はあるけれども。他に場所はあるけれ
ども。

いつせちな。一刹那。極小時間。間際。

いづち。何處。何れの方。

いち丁字なし。(目に)文字を解せぬ。文
盲。

いち^と點^を張^ぎ。或一事にのみ固執する事。

いつば。言へば(謡曲等の語)。

いつばあれど。いつと言ふ時はあるけ
れど。他に時節はあるけれども。

いち^と敗^は地^にまみる。全敗する。

いち^と片^のちけぶりとなる。血烟。斬
り殺される事。

いづみのした。泉下。黄泉の下。よみ
の國。

いでいで。さあさあ。どれどれ。

いでこむずらむ。出て来るだらう。

いでたち。出立。扮装。支度。よそほひ。

いでゆ。出湯。温泉。

いとしのおとうと。かはゆらしい弟。

いとたけ。絳竹。管絃の總稱。音樂。

いとほしむ。不便に思ふ。

いとまたまはる。暇賜。ひまを貰ふ。

いなめのめ。明けがたの。明くの枕詞。

いぬしに。犬死。無益の死。徒に死する事。

いはせもあへず。不言敢。言はする
間も無く。

いひかはす。言換。互に物を言ふ。

いひかひなし。言つても甲斐ない。附

甲斐ない。役に立たぬ。

いひどさ。言種。言ひ種。

いひけたて。言ひ消さないて。

いひこしらへ。言ひすかし。

いひさす。話を中止する。

いひしらぬ。不知言。言ふに言はれぬ程の。

いひせたむ。言ひ責む。

いひふるす。言舊るす。舊くさくなる程言ふ。昔から常に言ふ。

いひもはたさず。不言果。言ひ終へぬ中に。

いひよるよし。言寄由。言ひたよる方便。

いひわけのない。言分無い。完全な。

いぶかしげ。訝。疑はし相。不審相。

いぶせきふせや。住み苦し相な踐しい家。

いふばかりなし。何とも言ひやうがない。(馬鹿馬鹿しい事に就ても)。

いふべくもあらず。言ひきれぬ。

いふもおろかなり。言愚。言はずも明なり。

勿論。

いふをまたず。不待言。言ふ必要ない。

勿論。

意^い表^へに出づ。豫想以上。

いへち。家路。家への歸り路。

いへつと。家苞。みやげ。

いへる。家居。住居。

いほしる。五百代。廣くはてしない事。

いまさらめく。今更の様だ。無論である。

いましも。今丁度。

いまだし。未だである。まだ或事に逆しない。

いまは。臨終。死際。

いまはしき。忌むべき。不吉な。

いまやうめく。今様めく。當世風に見える。

因^い果^くの理法。因縁果報の理。

いむけのそで。射向袖。鎧の弓手(左)の袖。

いんじ。去にしの音便。此頃の。

いんもつ。音物。贈物。

いもせ。妹脊。夫婦。兄妹。姉弟。

いもなね。女。殊に妻を親しみて言ふ詞。

いもねず。寢も寢ず。寢れず。

いやがうへに。彌が上。愈々益々。其上に。

いやしくもせず。苟不爲。容易にせず。

いやとしのはに。彌年のは。年を追うて。年々。毎年。

いやとよ。いやいや(否々)。

いやます(ましに)。愈々益りて。

いゆきはばかり。行沮。行き兼ねる。

いゆきみましを。行將見。行つて見やうものを。

いよたちて。愈豎。身の毛がよだちて。

いりあひのかね。入相鐘。黄昏(夕刻)に撞く鐘。

いりひ。入日。夕方の太陽。

いろあす。色褪す。色さめる。

いろくづ。鱗。魚。

いろめく。色めく。敗北の兆候現はれ来る。勇み合ふ。

いろをなす。爲色。怒る有様。

う

ういらにきす。烏有に歸す。火災に焼けて失せてなくなる事。

うがふのしゆう。烏合の衆。一致なき衆合勢。

うかれる。浮。心が落付かぬ。

うきねのたび。浮廢旅。憂き寢をする旅。

うきねのゆめ。憂寢夢。旅寢にて見る夢。

うけひく。承引。承諾する。

うしみつころ。丑満頃。丑三。深夜。夜中。

うしろまき。後巻。後陣。

うしろめたし。心に濟まぬ事。心もとない。不安心。

うすきみわろし。滞氣味悪。何となく氣味わるい。

うすつく。春く。太陽が山の端に入る。

うそざむ。虚寒。薄寒。少し寒い。

うそぶら。嘯く。吼える。聲高くなる。

歌ふ。

うたあはせ。歌合。和歌二首を取り其優劣を判する事。

うたのみ。有待の身。肉體。無常の身。

うたかた。水の泡。無効。

うたたね。轉寐。假寐。假初に寐る事。

うたのつら。歌列。他の和歌と同等。

うたのひじり。歌聖。歌よみの名人。

うたまくら。歌枕。歌の序詞。和歌によ

みこむべき名所。

うちおどろかす。打驚。警醒する。注意させる。訪問する。

うちおほひを葺く。打覆。屋根を葺く。

うちかたな。打刀。鏢のついた刀。

うちずす。打誦す。讀む。

うちつけなる物から。卒爾なれども。

うちつけに。卒爾に。さしあてて。端的に。

うちでのこづち。打出小槌。心の儘に寶を出し得ると言ふ小槌。

うちとけて。打解。心を打ち明けて。

うちのべて。打延。延期して。

うちはたす。打果。打殺す。

うちはへて。打延。延ばして。長引いて。

うちまもる。打守。見詰める。守る。

うちまろばす。打轉。打ち轉がす。

うちもの。打物。刀。武器。

宇治山の木の芽の汁。茶を指して言

ふ。

うちよする。駿河の枕詞。

うちわびて。打佗。困窮して。

うつき。卯月。舊四月の稱。

うつくしみ。いつくしみ。慈愛。

うつしところ。現心。本心。正氣。

うつせみ。空蟬。現身。はかない意。又

空蟬のは命世人等の語の枕詞として傳き

意に用らる。

うづたかし。堆。高く積れる状。

うつていづ。打而出。出陣する。

うつばり。梁。家屋のはり。

うつぶせ。俯。頭を前に垂れて下を向く事。

うづみび。埋火。爐の中に埋めてある炭火。

- うでな。臺。高殿。樓。
 うでのたしかなる。腕確。腕ききの。
 上手な。
 うでよきひと。腕善人。腕きき。熟練家。
 うでをみよ。見腕。腕前を見よ（自信力ある事を誇る語）。
 うとうとし。疎々し。仲わるい。
 うなだる。項(うなじ)を前方に垂るる事。
 うなづく。頭を前に揺がす(承諾の意を示す)。
 うなねつく。鵜が頸を水中に突き入れる様に頭を地面に下げ敬意を表する事。
 うなばら。海原。廣い海。
 うなゐこ。髻髮子。童子。
 うばそく。優婆塞。佛教の門に入った男子。
 うばたまの。鳥羽玉。黑夜月夢闇等の枕詞。
 うひらひし。初初。初めてらしい。未熟練。
 うひぢん。初陣。初めて戦場に出る事。
 うぶげ。産毛。初生の時の毛。

- うへのをのこ。上男。殿上人郷相雲客を言ふ。
 うまい。熟寝。快く寝入る事。
 うま鞍をのみ重くす。武事のみを尊ぶ。
 うまご。孫。まご。
 うまに鞍置く。馬に乗る。
 うまのはなむけ。馬の錢。錢別。旅行に出る人に品物詩歌等を贈る事。
 うまひと。君子。貴人。
 うまれかひあり。有生甲斐。生れた甲斐ある。男らしい。
 うまをひく。引馬。馬を贈られる。
 うみづら。海面。海の表面。
 うみゆかはみづるかばね。海行かば水漬屍。海にては水に漬されても死ぬ。
 うんかのへい。雲霞兵。大軍。多数の兵。
 うめく。呻。うなる。
 うもれぎわざ。埋木業。世人が認めぬ仕事。
 うらかなし。心中何となく悲しい。
 うらつたひ。浦傳。海岸に沿うて航する

事。

うらみをのんで。呑怨。怨を晴さないで。

うらわ。浦曲。浦の曲つた處。

うらわかし。若々しい。幼少である。

うれしなきになく。餘りの嬉しさに泣く。

うろおほえ。不明瞭に記憶して居る事。

うゑこみ。植込。樹木を繁く植ゑ込んだ處。

え

えうがい。要害。大切な場所。天嶮。

えうなきものとなす。無要物。大切ならぬものとして見限る。

えしもおほえず。覚えて居る事も出来ぬ。

え……ず。ぬ。ね。……する事が出来ぬ。

えせあきんど。似て非なる商人。

えせうた。似而非なる歌。卑しい歌。

えだをならさぬみよ。吹く風が樹の枝をも鳴らさぬ様に太平に治まつて居る

御代。

えびす。蠻夷。外國の人。

えんかのへき。烟霞の癖。旅行好きのくせ。

えんぶ。閻浮。此の世。人間界。

えんをむすぶ。結縁。男女の縁を結ぶ。佛道と縁を結ぶ。

えもいはぬ。言ふ事が出来ない。

えもの。獲物。捕獲物。

えやみ。疫病。流行病。

お

おうて。追うて。と共に。(年を追うて)。

おろつき。奥津城。墓。

おこなふ。行。佛道を修め行ふ。修行する。

おしおほふ。推被。段々に廣がり被ふ。

おしきはむ。推究。研究する。

おしてるや。押照。難波の枕詞。

おしなべて。一般に。押しくるめて。

おしばたぬぐ。押膚脱。膚をぬぐ。

おすくらに。食國。治め給ふ國。

おそれあり。有恐。心配がある。氣遣がある。

おだやかならず。不穩。不穩の形勢がある。

おちむしや。落武者。戦に敗れて逃げる武者。

おちゆく。落行。逃げて行く。

おちゐず。落居。落付かぬ。世が治まらぬ。

おつおつ。怖怖。恐れながら。

おつつけ。追付。やがて。永からぬ中に。

おとしめあふ。貶合。互に見下げ輕蔑する。

おとづれ。訪問。書信。

おとど。大臣。

おととひのつら。兄弟の列。兄弟と同等。

おとなしやかに。穩順ていやみがなく。

おとなふ。音がする。訪問する。

おとにきく。音聞。有名な。

おとにきこゆる。有名な。評判に聞えて居る。

おどろ。草叢の恐ろしい様に生ひ繁つた處。

おどろおどろし。恐ろしいさまである。

おにび。鬼火。きつね火。

おのがじし。各自。勝手に。心々に。

おのれにかつ。克己。我慾を制抑する。

おぼしま。欄干。

おびえあがる。怖ぢ驚いて起き上る。

おひかせ。追風。彼方から追襟に吹く風。

おひたつ。生立。生長する。

おひてのかぜ。追手風。順風。

おびないがしろに。帶をしどげなく。

おひわけ。追分。道路の左右に別れる處。

おふしたつる。生し立てる。育てる。

おふて。追手。大手。城砦の表門。

おほうなばら。大きな海原。

おほかなり。多くあるなり。多い。

おほきおとど。太政大臣。

おほげさ。大袈裟。誇張。實際より甚しい事。

おほげなし。無負氣。自身に過る。勿體ない。

おほしまどふ。思惑。如何にすべきかと考へ惑ひ給ふ。

おほしみだる。思亂。御考がみだれる。

おほつかなし。無覺束。危く思ふ。不安心。

おほどのこもり。大殿籠。御寢になる事。

おほぬかり。大拔。大失敗。大失策。

おほまんどころ。大政所。攝關の母の尊稱。

おほみあれひ。大御生日。天子の御生まれなされた日。

おほみかど。大御門。朝廷。

おほみきまゐる。御酒を召し上る(天子に)。

おほみこころ。大御心。天子の御心。

おほめかす。ほのめかす。諷示する。

おほやけ。公。公廳。宮廷。

おほやしま國。大八洲國。日本國。

おほやをたぐふ。大矢を亂へる。

おほらかに。多く。澤山。

おほろげに。臆無に。ぼんやりと。

おほわらば。大童。髪を振り亂したるを言ふ。

おんおほえめでたし。御寵愛が厚い。

おんぎやうのじゆ。隠形の咒。咒文を唱へて身を隠す事。

おんぞう。御族。一族。一門。

おんど。音頭。謠ふ時調子をとる人。

おんばら。御腹。生まれた方。

おんみ。御身。あなた。

おんもと。御許。貴女(あなた)。

おめおめ。恥を知らぬ有様に。

おめにかう。見せ申す。進呈する。

おもかはり。面變。物人等の容子の變り來る事。

おもざし。面差。面影。顔つき。顔色。

おもておこす。面起す。名譽を得る。名譽になる。面目を施す。

おもばゆし。赤面。はづかしい。靦然。

おもひあがる。思ひ上る。思を高く廣くする。自負する。心が高尚になる。

おもひいたらず。想到。想像せぬ。

おもひろむ。思波。思ひやる。思ひ取る。

酌量する。

おもひたらぬ。思ひてあらぬ。思はぬ。

おもひで。思出。思ひ出す種。紀念。

おもひなる。思成。考が變る。

おもひぬ。思廢。何事かを思ひながら廢る事。

おもひまうけず。不思議。豫期せぬ。

おもひやる。思遣。遠方又は他人の事を推し量る。同情を寄せる。

おもひわたる。思渡。度々思ひ考へて居る。

おもひをこがす。深く考へる。焦慮。

おもひをひそむ。潛思。熟考する。

おもへらく。思ふには。

おもほえず。思はれぬ。存せぬ。

おもむきをことにす。異趣。風が變つて居る。

おもむけたまふ。趣給。趣かせ給ふ。

おももち。面持。面相。顔つき。

おもりにおもる。病氣等が非常に重くなる。

および。指。

おりゆ。下湯。風呂に入る事。

おろか(なり)。勿論。(日本中はおろか)

おろしこむ。下籠。戸を差籠めて居る。

おろそかながらに。粗末なれども。

か

かいくる。掻繰。たぐる。

かいさぐる。掻き探る。

かいしやく。介錯。介抱。切腹の時側に居て首を斬る人又其事。

かいたい。海内。日本國中。

がいぶん。涯分。分際。出来る丈け。

偕老の契。夫婦の親密なる約束。

かうかうし。神々し。神聖なり。

かうたけて。更長。夜ふけて。

がうのもの。剛者。極めて強き者。

かうみやう。高名。名譽。手柄。

かうやう。斯様。かやう。

かうより。紙燃。かみよりの音便。

かうらん。高欄。神殿の椽のつまにある欄干。

かうれい。伉儷。匹配。妻。

かかづらふ。かかり合ふ。關係する。
かがみなす。如鏡。鏡の様な。
かがよふ。耀。かがやく。ひらめく。
かきくれて。搔暮。暮れて。暗くなつて。
かきこしに。籬越。籬の上を越して。
かきなす。畫き成す。搔いて作り上る。
 樂器を搔いて鳴らす。
かきならす。搔鳴。彈ずる。奏する(琴
 など)。
かきみだる。搔亂。心が大に亂れる。
かくれが。隠所。隠れ場所。
かけはし。懸橋。棧道。崖などに通ぜる
 路。
かけまくもかしこし。言葉に出さむ
 も恐多い。勿體なくて言はれぬ。
かざしも。風下。風の吹き向ふ方。
かざりをおろす。落飾。髪を剃る。
かしこきあたり。畏邊。天子。
かしらおろす。頭下。髪を剃る。僧又
 尼となる。
かずかず。數々。數多。澤山。屢。
かずならず。非數。數に入らぬ。つまり

ぬ。何ものかは(何でもない)。
かずならぬみ。非數身。物の數にも入
 らぬやうな賤しい身。
かすみこむ。霞籠。霞が満ちてゐる。
かすみのころも。霞衣。霞を衣になぞ
 らへて言ふ。衣のやうな霞。
かすみのほら。霞洞。仙洞御所。上皇
 の御所。
かずをつくして。盡數。有限り。悉く。
かぜもたまらぬ。風不滯。風が吹き通
 す。
かぜをはらむ。孕風。帆などが風の爲
 にふくれる有様。
かぞいろ。父母。
かたう。家道。一家の活計。生活の道。
かたうど。方人。味方。
かたくな。頑。頑迷。偏屈。片意地。
かたし。片足。一方の足。
かたしく。片敷。衣の片袖を敷く。
かたそば。片側。傍。
かたそへて。傍に添へて。
かたづをのむ。吞固唾。唾を口中にた

めて。氣を凝して事の成行を待ち見る態。

かたなづけの馬。 充分馴らさぬ馬。片懐。

かたはづく。 不具就。不具になる。

かたはらいたし。 傍痛。傍に居つていやな氣持がする。小癩なり。

かたへ。 片邊。傍。

かたほ。 片帆。帆を一方に偏らせた船の有様。

かたましき心。 ねぢけた心。

かたみせまし。 肩身狭。自ら愧づべき状也。

かたみひろし。 肩身廣。誇るべき状にある。

かたやまが。 片山家。偏鄙又山邊にある家。

かたらひて。 語。相談して。味方にして。

かたわれづき。 片破月。半月。

かたをもつ。 持肩。持方。味方する。最負する。

かぢ。 (加持)。真言宗で佛力護念を禱る咒法。

かちよりゆく。 徒行する。歩行する。

かぢをもほさず。 不干機緒。機緒を乾さず船の出入のいそがはしい有様。

かつがつ。 かた方よりボツボツ。少し。機かに。

かつろ。 被。かぶる。頭に被る。水を潜る。

かつば。 且。かたはら。其上。一方では。

がてんす。 合點。了解する。

かどて。 門出。旅立ち。首途。

かなへのわろが如し。 如鼎沸。騒がしい事。

かねにわたす。 曲渡。眞直に河を横つて渡す。

かはしり。 川尻。川下。

かはせうえう。 川遼遙。川遊び。

かはとこ。 川床。川底。

かはのみみ。 川耳。川の岸。

かひがひしく。 甲斐ある様に。物を爲して効ある状に。氣がきいて。率先して忠實に。

かぶきもん。 衛門。二本柱に一本の笠木ある門。

かへさ。 かへるさ。歸り途。歸る時。

かへさひきこゆ。再三辭し申す。
かへし(うた)。返歌。返答の歌。
かへりまうし。報賽。禮詣り。復奏。
かまへて。構。心にかけて。決して。
がまんのつのを折る。我慢の角。我
 を折る。自ら屈する。
かみかくれ。神隱。天子の崩御。
かみがた。上方。偏鄙より畿内地方を指
 て言ふ。
かみなつき。神無月。舊十月の稱。
がんかう。雁行。雁の飛ぶ如く各々少し
 の間隔をとつて進む事。
かんがみ。鑑。手本。
かんき。勘氣。勘當。
がんし。雁齒。橋の上のきだの状。
間^{かん}然^{ぜん}す^る處なし。非難すべき點な
 い。完全無缺。
かんたちめ。上達部。公卿。
眼^{かん}中に置かず。事とも思はぬ。輕視す
 る。
かやつ。彼奴。あのやつ。
かやり。蚊遣。蚊遣火。蚊いぶし。

からうた。漢歌。漢詩。
からきいのちをたすがる。助辛命。
 命をからうじてたすがる。
からこころ。漢意。支那的の考。
からめて。搦手。城砦の裏門。
かりがねのこゑ。雁金之聲。雁の鳴く
 聲。
かりくら。狩倉。狩場。
かりこもの。刈薦。亂ると言ふ語の枕詞。
かりそめの。假初。假の。一時の。
かりようびんが。迦陵頻伽。美音の鳥。
かれいひ。餉。乾飯。ほしいひ。
我がを折り節を屈す。大に忍耐する事。

き

きうぎうの一毛。九牛一毛。極めて僅
 か。
きうせんの下。九泉下。死人の在る地。
きえいるばかり。息の絶える程悲しい
 時。
きえをあらそふ。争つて消えやうとす
 る。

- きくならく。聞。聞く所に依れば。
 きくわい。奇怪。けしからぬ。不都合。
 奇^き貨^か措^さくべし。好機會乗ずべし。
 きこえ。聞。評判。芳名。
 きこえあぐ。聞上。奏上する。
 きこしめす。聞召。御聞になる。召し上る。
 きごす。兆。催す。始まらうとする。
 杞^き人^{にん}の憂。心配するに足らぬ事を心配する事。
 きしやうもん。起請文。誓の書。
 機^き先^まを制^{せい}す。人に先んじて利を得る。
 きたいくわぶん。希代過分。奇異にして分際に過ぐる事。
 きづな。繼絆。ほだし。束縛。綱。
 木に縁て魚を求む。不可能な事をする事。
 きのまるどの。木丸殿。丸木で建てた殿。
 きぼう。既望。陰曆十六日。
 きばまりゆく。窮行。窮して行く。
 きばみなき。無窮。際限ない。無限の。

- きみまさて。君不在。君が御出にならな
 いて。
 きみやう。歸命。佛に歸依する事。
 きんだち。公達。諸王。攝家等の子息。
 きんむろ。金無垢。純金。
 金^{きん}紋^{もん}まろ。金時繪で紋をつける。
 きものにめいず。肝銘。決して忘れぬ。
 きやうおもて。京表。都。
 きやうじや。行者。修行者。諸國遍歴の
 僧。
 きやうずみ。行水。水で身を洗ひ淨める
 事。
 きやくりん。逆鱗。天子の御怒。
 きゆうそだい。窮措大。書生。
 曲^{まが}水^{すい}の宴^{えん}。三月土巳の日に川水に盃
 を浮べて遊ぶを言ふ。
 きよくせきす。踟躕。うづくまる。
 きよくもなや。無曲無興。つまらぬ事
 よ。
 きらびやか。きらめく様に美しい。壯麗。
 桐^{きり}の一葉と散る。人の死ぬる事。
 きりもの。きれもの。權臣。

きをつめて。機を詰て。熱心に。

く

くぐつめらもの。くぐつ(藪で袋の様に編んだ物)のやうに見える物。

くご。供御。天子の御膳部。

くさどさの。種々の。色々な。

くさのいほり。草庵。賤が家。粗末な家。

くさのや。草屋。草葺の家。粗末な家。

くさまくら。草枕。旅等て草の上などに伏す事。旅。

くさむすかばね。草生屍。屍に草が生る事。

草より出て草に入る。武藏野。大野原。

くじ。公事。おほやけ事。朝廷に於る政治儀式等。

くしくたへなる。奇妙。奇妙な。

くだかけ。鶏。

くだくだし。くだい。うるさい。繁多過る。

くちずさむ。口で言ふ。

くちたたく。叩口。口で物を言ふ。

くちとりのわらば。口取童。馬の口を取つて歩く童子。小馬丁。

くちなは。朽繩。蛇。

くちをし。口惜。惜しい。残念なり。

くつばみ。口食。くつわ。轡。

くつわづら。轡列。手綱。

くつわを包む。轡を包み馬の嘶かぬ様にする。

くづをる。崩折。弱る。おいぼれる。

くにしらす。治國。國を治め給ふ。

くにばら。國原。廣々と續き居る土地。

くひおほす。食果。食ひ果す。食ひ盡す。

くびじつけん。首實驗。敵首の實否を大將自ら檢むる事。

くひせをまもる。株を守る。舊慣を墨守する。

くひなのたたく。水鶏が鳴く。

くびのぞ。首座。首の付いて居る處。

くびをかく。首を斬り取る。

くびをめす。召首。首を刎れる。首を斬る。

くほんわうじやう。九品往生。極樂淨土の等階。

くまい。供米。神佛に供へる米。

くまなく。無限。残る處なく。目の届く限り。

くみす。與。味方となる。賛成する。
君^{くん}臣^{しん}水^{すい}魚^{ぎょ}。君臣の關係が水と魚との關係の如くに親密なる事。

くめのこら。久米部の子等。武人の子供等。

くもすけ。雲助。昔驛々に居つた繼立の人夫。

くもては。蜘蛛手十文字に。八方に打遣つて。

くものうへ。雲上。宮廷。

くもゐのそら。雲井空。高い空。

くやく。公役。官より宛てられた夫役。

くりん。九輪。塔の頂の露盤の九層なるもの。

くるし系。苦しい事よ(感歎の辭)。

くるめく。眼がくるくると廻る。めまひする。

くれたけ。吳竹。淡竹の類。

くろふね。黒船。徳川時代に外國船を指て言ふ。

回^{くわい}天^{てん}の偉業。已に衰へ果たるを復古する大事業。

くわいろく。回祿。火災。

くわうぎ。荒儀。亂暴。

くわうせん。黄泉。死人の趣くべき地。
過^ち去^き帳^{ちやう}。寺にて死人の法名を書き置く帳簿。

くわちう。華胄。貴族。

くわばう。果報。因果の應報。結果。幸福。

くわべい。畫餅。水泡。効果ない。

くわんすう。卷數。祈禱立願の爲に掛る咒文。

くわんちやう。灌頂。佛道に頭に香水を灌ぐ儀式。

くわんねん。觀念。一心餘事を思はず悟道を念ずる事。

くわんぶつの頃。灌佛の頃。四月八日頃。佛生會の頃。

け

- けいげい。鯨鯢。軍艦。
 けいてい。徑庭。かけへだたり。間隔。
 けいめい。經營。客を善くもてなす事。
 けうとき。氣疎。疎はしく思はれる。人
 里離れて居る。淋しい。
 けうにして。稀有。不思議にも。やつと。
 けおさる。氣壓。劣る。壓倒せられる。
 げかい。下界。人間の世の中。
 げかう。下向。都より田舎に行く事。
 げがしきふせや。穢らはしい賤しい伏
 屋。
 げきりよ。逆旅。旅宿。宿屋。
 げしうはあらず。非異。悪くは無い。
 さしつかへはない。
 げしきたつ。氣色立。氣色が現はれて來
 る。
 げしきばかり。氣色許。形式だけにて。
 げす。下司。卑しき官人。
 げすげらう。下衆下郎。卑賤な者ども。
 げだかし。氣高。品が善い。

- げだつ。解脱。世の俗念を脱する事。
 けたてのはひ。蹶立灰。蹶て起した灰。
 げち。下知。命令。
 げぢめ。差別。
 げつけいうんかう。月卿雲客。公卿殿
 上人。
 けつてい。決定。一定。必定。必ずや。
 けつてき。けつえき。關腋。わきあけ。
 血路を覓む。迷路を作る。
 けなげ。健氣。かひかひしく。殊勝に。
 げに。異に。異體に。ことさら。
 げにん。家人。家來。
 げねん。懸念。掛念。心にかける。心配。
 げはひ。氣色。見え。容子。
 げふん。外吻。くちわき。
 げみす。閱す。改め見る。
 言下かに答ふ。直ちに答へる。
 けんげう。檢校。盲官の名。
 げんざん。見參。謁見する事。
 けんたい。獻替。獻策。奏議。
 顯密の僧。顯教(天台)密教(真言)の僧
 侶。

こ

こあげうた。小揚歌。船荷を揚る時のかけ聲。

こうかん。後勘。後日のとがめ。

こうこん。後昆。後世。後繼。

こうじにこうじて。困。大に困難して。

ごかい。佛教に殺生偷盜邪淫妄語飲酒の五戒。

ごかうじ。御勘じ。天子が勘當する事。勅勘。

こがらし。木枯。秋冬に強く吹く風。

こき。古稀。(人生七十古來稀)。七十歳。

こきまぜる。充分に混合させる。交錯させる。

こくびかたむく。傾小首。一寸考へる。

こくびやくを争ふ。争黑白。勝負を争ふ。

こけのした。苔の下。地下。墳墓の中。九泉。

ここのへ。九重。宮中。

九重の雲の上。宮廷。

心あるもの。有情のもの。風流氣ある者。

心いれ。心入。注意。

心おきなく。遠慮なく。

心おごりす。心驕。自分でえらく感ずる。

心ぎは。心際。心持。氣質。

心どるし。心苦。氣の毒。

心して吹け。注意して吹け。

心しらひ。心かまへ。心する事。心づかひ。

心せよ。注意せよ。

心だて。心立。立志。氣質。

心づかひ。心遣。もてなし。配慮。

心つきなし。無心付。無情。思ひやりない。

心なの。心無の。考のない。

心ならずも。不本意ながら心に逆り。

心にかる。心掛。心配する。注意する。

心ね。心根。心の底。根性。

心のこま。心駒。心の浮立ち居るを馬に譬ふ。

心のひきひきに。心引引。心の望む方

に随つて。各自勝手に。

心のほかなる事。意外の事。思ひ掛ぬ事。

心のみばやる。心ばかりあせる。

心のやみ。心闇。親が子を思つて分別無くなる事。

心ばへ。意。心の趣。心持。

心へだてぬとも。不隔心友。親友。

心まめなる。氣丈夫な。親切な。

心もとなし。無心許。待遠くて不安心なり。

心やり。心遣。心の慰。

心やりごさ。心遣種。心を慰める材料。

心ゆかぬをり。満足せぬ時。

心行くかぎり。心行限。思ふ存分。

心をおかぬ友。親友。

心をくだく。碎心。苦心する。心配する。

心をせめて。責心。心を盡して。誠實に。

心をつくして。盡心。誠心誠意に。

心をゆるす。許心。油断する。

ここをせんとと戦ふ。茲を先途と戦ふ。之が決戦なりとて戦ふ。

こぎかしら。小賢。賢い氣に。生意氣に。

ござんなれ。こそあるなれ。ヨシヨシ。

こしかた。來し方。過去。既往。

こしちのたび。越路旅。越の國(北陸道)への旅行。

こしやう。小姓。近侍の役人。

ごしやう。後世。來世の安樂。

ごぢやう。五常。人の常に守るべき五つの道。父子親君臣義夫婦別長幼序朋友信。仁義禮智信。

ごしよ。御所。内裏。

こしをれ。腰折。自分が詠んだ歌。拙き歌。

ごす。伍。同列にある。同等の地位にある。

こせい。小勢。少數なる兵力。

こせつ。古刹。古い寺。

ごぜん。御前。前驅。さきおひ。

こせりあひ。小迫合。小勢にて暫時の戦。

こぞりて。舉。悉皆。揃つて。

こだし。小出。少しつづ出す事。少し宛出す錢。

こたはる。拘。かかつらふ。かかほる。

こたみ。こたび。此度。
こちたし。言痛。甚だしい。甚だ多い。
ごぢやう。御説。仰せごと。
骨っ肉ぢ相食はむ。父子兄弟相争ふ。
ことあげず。言揚。特別に言ふ。揚言する。
ことおもらせ給ふ。事重。病が危篤になり給ふ。
ことかく。事缺。不自由。不如意。缺乏する。
ことかはり。事異。異り。ちがひ。
こときれ。事切。死ぬる事。
ことごとしう。大事らしく。只事ならぬ様に。
ことごとく。別々に。凡ての物に對し。
ことしげし。事繁。用事が多い。
ことそぐ。事殺。省畧する。節減する。
ことぢ。琴柱。琴の柱。
ことづてたる。言傳。言告げた。寄語した。
こととふ。言問。問ふ。物言ふ。話しかける。

ことにして。事而。やつとの事て。
事の數にもあらず。懸念するに足らぬ。
ことのさま。事態。現在ある事の有様。
ことのななめの時。平時。何事もない時。
ことのほか。殊の外。思ひの外。案外。
ことよし。事由。理由。
ことぶく。壽く。祝ふ。よろこびを言ふ。
ことふりにたれど。言舊。言ふも舊くさくなつたけれども。陳套なれども。
ことむく。言向。平げる。従はせる。
こともなげに。事無氣。平氣で。何事もないやうな風に。
ことわりせめて。道理至極にて。
ことをあぐ。舉事。謀反する事。
このめはるさめ。木の芽春雨。木の芽は春(張。生の縁語)の序。
このもかのも。此面彼面。こつちもあつちも。
此世ながらの冥途。現世にある儘の冥途。

こはそもいかに。此れはマアどうした
ものだらう。

こはんどき。小半時。三十分位。

こはる。小春。初冬の暖かな時節。

こひのむ。乞祈。祈願する。

こひやう。小兵。身體の倭少なる事。

小兵と言ふ條。小兵ではあるけれども。

ごふしやうながら。御不祥。不肖。御納
得ないかも知れぬが。

ごふふう。業風。憤りの風。

ごへん。御邊。あなた。

ごまにしき。高麗の國から渡來した錦。

ごまのはひ。護摩灰。旅人を騙かし品物
を盗むわるもの。

駒引渡る望月の頃。駒引渡は望月の
序。逢坂り關の清水に影見えて今や引ら
む望月の駒(拾遺集貫之の歌)に出づ。

金剛力士。仁王。

こんかぎり。根限。命限。一生懸命。

ごんごじやうど。欣求淨土。淨土を願
ひ求むる事。

こんじやう。今生。今此世に生きて居る

中。

こんりよりの御衣。袞龍。天子の御召
物。

こよなう。甚だ。此上なく。格別。

ころしも。頃しも。時は丁度。

ころぶす。轉び伏す。

ころもて寒し。衣手寒。袖のあたりが
寒い。

こわつば。こわらは。小童。

さ

さあらたむ。然改。さう改める。改める。

さいうす。左右。支配する。

塞翁の馬。人生の禍福は豫め知り難き
を言ふ。

さいかくいたして。才覺致。工夫して。

最後のまうし状。最後の申立。

さいし。祭祀。敬神。

さいじたる。叢爾。小さな。

さいつとし。前年。過ぎ去つた年。

造化の妙技。自然の妙なる業。

造詣深し。奥義に通じて居る。詣り深

い。

滄^う桑^うの變。滄海が桑田と成る程の大變遷。

さうざうし。淋しい。

さうしきの人。相識。知人。友人。

造^う次^い顛^ん沛^ば。如何なる時も。

さうしん。喪心。ぼんやり。氣が遠くなる事。

さうせい。蒼生。人民。青人草。

さうせい。早世。若くて死ぬる事。早死。

さうぞく。裝束。よそほひ。

さうどきあふ。騒ぎ合ふ。

さうなし。無左右。躊躇せぬ。

さうのひざ。左右膝。雙の膝。兩膝。

さえかへる。冴返。甚だ寒くある。

さかうたげ。酒宴。さかもり。

さかさかし。賢賢。いかにも賢こ相だ。

さかしらに。賢こいふりする事。賢こだてに。生意氣に。

さかで。酒手。酒代。酒の代金。慰勞の金。

さかなき童。善からぬ童兒。

かさもぎ。茂木木。鹿嶋。棘を逆まに立て

置き敵の侵入を妨ぐる材料とするもの。

さかやき。月代。剃毛。頭髮を剃る事。

さきだつ。先立。先頭に進む。人より先に死ぬ。

さきみだる。咲亂。爛漫と咲いて居る。

さきもり。防人。國邊へ派遣する兵。

さぎり。狭霧。霧と同じ。

索^さ然^んとして。興味の更にない有さま。

さくらかざす。翳櫻。櫻を頭に挿す又弄ぶ。

さくらがり。櫻狩。野山に櫻を探れ見に行く事。

さびすむ。見下る。侮り賤める。

さざなみ。小波。風によつて水面に起る小波。

さざなみの。小波。志賀大津等の地名の枕詞。

ささめかす。サワサワと水音を立てる。

さしぐむ。目に涙を催はす。

さしたること。夫程迄の事。大した事。

さしつめさしつめ。絶間なく。絶えず。

さしてごち。差出口。身分を顧ず首を挾

む事。

きじん。左衽。ひだりまへ。

さしもどかる。非難せられる。

さすかに。さうは言ふものの。本分に恥ぢず。

さすらふ。流離。たよる處なくブラブラ歩く事。

させる英雄。左程の英雄。大した英雄。

さた。沙汰。官令。知らせ。音信。流言。訴訟。

さう。幸。幸福。山海の獵の獲物。

さつきやみ。臯月闇。五月雨降る頃の闇。

さて。叉手。魚鳥蝶などを捕ふる器。

さてあるべきにもあらねば。かまはずに置く譯にも行かぬ故。

さてしもあらねば。全上。

蹉て。つまづく事。失敗する事。

さとだいら。里内裏。内裏の外の里第を以て行在所とする稱。

さとびと。里人。里に住む人。

さながら。宛然。悉皆。丁度。其儘。

さなきだに。さうで無くてもさへ。

さならは。然うてなくば。然らずば。

さなへ。早苗。稻の苗を苗代から田に移す事。

さにつらふ。吾大君。いもをとめ。君等の枕詞。

さはいへ。さうは言ふけれども。

さはりなく。無障。故障なく。

さびたる。淋しい。移り變りゆく。

ざふしき。雑色。雑役に服する者。

ざふひやう。雑兵。兵卒ども。

さへのかみ。道祖神。道の神。旅人を守る神。

さほひめ。佐保姫。春の女神。

さまで。然迄。それ程迄。

さふよふ。散歩する。漂流する。

さみだれ。五月雨。舊五月頃に降るなが雨。

さんげん。三絃。三絃の樂器。三味線。

さん五ちやうと夜ちやう中ちやう。八月十五日の夜。

さん舍しやを讓やる。恐れ退く意。辟易する。

さん水すいの癖くせ。旅行を好むくせ。

さん尊そん。阿彌陀如來。觀音菩薩。勢至菩薩。

薩。

さんどう。棧道。かけはし。嶮岨な山道。

三伏の日。三伏の日。(初伏中伏末伏)。夏期酷暑の時。

三昧。一途に心を傾ける事。專心。

三昧に入る。神域に達したと言ふ意。

山門。寺の前に建つて居る欄門。

産を傾く。破産する。

算を亂して。無數に。非常に多く。

さめざめと。潜々。泣く有様。

さむ。如何にも。實に。

さむあらばあれ。勝手に處分せよ。其儘に任せやう。

さむこそと。如何にも然ふあらむと。

さむとある者。さうあるべき筈の者。

さゆり。百合に同じ。ゆり。

さよ。小夜。夜に同じ。

さよあらし。小夜嵐。夜嵐に同じ。

さらずば。さうでないならば。然らずば。

さらなり。更也。言ふを要せぬ。勿論である。

さらぬやうにて。そんな様子は見せない。

いて。

さらば。然らば。別れの時の詞。

さりげなげにて。何事もなかつた貌で。

さる。然有る。某の。或。

さるをももちもせず。そんな顔付もせず。

さるけばひ。さう言ふ様な摸様。

さるほどに。然程。さうして居る中に。

されば。しあれば。となれば。「夕されば」

さればむ。戯れた状をする。ふざける。

ざれをとこ。戯男。風流男。

さわらび。早蕨。蕨に同じ。

さをさす。掉す。船を漕ぎ行く事。

し

思案屈託の體。つらつら考へて居る體。

しいじ。四時。春夏秋冬。

しろう。驟雨。にわか雨。

しうち。仕打。舉動。

愁眉を開く。悲みがなくなる。

しうん。紫雲。吉祥ある時にたなびく雲。

しかあらば。然有者。さうしたならば。

じがい。自害。自殺。

しかつめらし。容態ぶる。四角ばる。

齒牙にかけず。何とも思はぬ。

しかばね。屍。死體。

支^し干^{かん}一週^{しゅう}。六十年。

しぎ。仕儀。仕宜。成行。状態。

しきし(がた)。色紙(形)。歌を書くも
のて四角に切りたる紙。

しきしま。敷島。大和の國の枕詞。

しきだい。色代。式退。挨拶。會釋。敬禮。

しきたへの。敷栲。敷妙。まくら衣。袖。床
家などの枕詞。

しきないしきげ。式内式外。延喜式に
載せてある社及び載せてない社。

しげきがもと。茂樹の下。繁樹の林。

時刻を廻らす。時刻がかかる。

しこめ。醜女。黄泉に居る醜い強い女。

しころ。鍛。兜の後ろに垂れたるもの。

しさい。仔細。今日迄の成行。詳しい事
柄。理由。

じじん。自盡。自殺。

しじょう。史乘。歴史。

咫尺を辨せず。少しも先方が見えぬ。

しぜん。自然。天然。萬一。いつか(謠曲)。

したかげ。下陰。木などの下の陰。

したしたる事なし。何事もせぬ。不成
功。

したふがね。慕ふが故に。

したりがほ。爲顔。爲し得たり顔。得意
氣な顔。

したをふるふ。振舌。驚いた様。

したをまく。振舌。驚いた貌。

しづえ。下枝。樹の下の方の枝。

しづがかきね。賤牆。賤しい人民の家
の垣根。

しづがふせや。賤伏屋。賤しき民の家。

しづがや。賤家。賤民の家。

しつけかた。躰方。養育事業。教育法。

しづのをしづのめ。賤しい男女。

しづはたの。賤機。倭文(しづ。古の織物
の名)を織る機の。あやの枕詞。

櫛ら風ぞ沐雨。風にくしけづり雨に浴す。

困難する。

しづやまがつ。賤山賤。山に住む賤民。
 しつらふ。飾りつける。造り構へる。
 してたる。垂てたる。垂らした。下げた。
 しての旅(道。山路)冥途。死人の行つて歸らぬ旅(道)。

しどけなし。締りが無い。
 しとやかに。舉動落付いて。しつとりと。
 しなどのかみ。科戸神。風を司る神。
 しにめにあふ。逢死目。死際に逢ふ。
 しのつくあめ。篠を束れた様に降る雨。強い雨。

しののめ。東天。あけぼの。曉天。
 しのびあし。忍足。密かに。そつと。
 しのびわらひ。忍笑。顔面にあらはさぬやう忍んで笑ふ事。
 しのぶもちずり。忍摺。忍草にて摺り付けたもの。

しばす。師走。極月。舊十二月の稱。
 しばたたく。屢々まぶたを開閉する。
 しばふ。芝生。芝の生ひて居る所。
 しばやま。柴山。雜木矮樹の生て居る山。
 しひしば。推柴。椎の木。

しぶき。強く吹く事。
 しぶる。強く吹く。
 十善の天子。前世にて十悪をせぬ立派な天子。

しぶちやく。執着。深く思をかける事。固執。

じふもつ。什物。寺にある什寶。寶物。

しほあひ。潮合。汐時。機會。

しほいり。潮入。潮の入りたる所。

しほさる。潮騒。浪の踊り騒ぐ事。

しほたれがち。歎きに沈み勝。涙にて袖がぬれがち。

しほぢ。潮路。大海。大洋。

しほなれごころも。汐馴衣。汐に濡れた海人の衣。

しほのやほぢ。潮八百路。廣い海。大洋。

しまろ。風が激しく吹く。

始末に行かぬ。手のつけ處がない。

しみたれおやじ。吝嗇な阿爺。

しむけ。仕向。やり方。

人ど口に膾炙す。人が皆言ひ居る。

しんざん。新參。新たに仕へる事又者。
しんしん。摺紳。高位高官の人。
しんそく。神速。極めて速い事。
進退きはまる。如何ともする事出来ぬ
 様に成る。
身代を疊む。財産に處分をつける。
しんたん。震旦。支那。
佛と通る力。神の萬能なる力。
しんでん。寢殿。貴族の家の主殿。
真と如きの月。まことの月。圓滿な月。圓
 満なる眞理を月に譬へて言ふ。
しんぴつ。宸筆。帝王の御手蹟。
神佛混淆。神と佛と同一體であると言ふ
 説。
しんべう。神妙。殊勝。奇特。感心。
身命を賭す。一生懸命になる。
しめつつ。領。我が物としながら。了解
 しながら。
しめやか。しつとり。靜まつて居る様。
 落ち付いて居る有様。
しものがれ。霜枯。草木の霜に會つて枯れ
 る事。

しもつき。霜月。舊十一月の稱。
しやうがい。生害。自害。自刃。自殺。
城下かの盟。敗北の講和。
しやうじいる。請じ入る。請ひて招ぐ。
しやうじや。精舎。寺。
じやうみ。上巳。三月三日。
じやうらく。上洛。京都に上る事。
じやくらん。弱冠。幼少。
しやくりなき。息を引き込んで泣く事。
しやしよく。社稷。國家。
しやつくび。首(罵詈の語)。
娑婆塞。何も役に立たぬ奴。
しやもん。沙門。僧。
沙羅雙樹。熱帯にある樹の名。
しゆくへい。宿弊。重なり重なつた弊害。
しゆくゆう。祝融。火事。
しゆじやう。衆生。あらゆる生物。
首鼠を兩端。二者何れにも決し得ぬ事。
春秋に富む。未だ年が若い。
じゆもん。呪文。呪に唱ふる詞。
修羅道。戦闘世界。
朱を注ぐ。怒つた貌。

職として。重に。主として。
 しよせん。所詮。つまる所は。つまりは。
 しよぞん。所存。考へて居る所。心中。
 しよにつく。就緒。事が初まる。
 しよまう。所望。のぞみ。注文。
 しらきつくり。白木造。木を塗らないで
 建てた家。
 しらさむ。土地を領せしめやう。
 しらまゆみ。白眞弓。射る張る引などの
 枕詞。
 しりあししく。尻足。退く。
 しりめにかゝる。尻目。後目。輕蔑して
 ならみつける。
 しりめにみる。後目に見る。全上。
 しりゐ。尻居。後方に倒れ尻を地につく
 事。
 しるしの石。碑文をきざんだ石。
 しるべ。案内。方便。知人。
 しれもの。痴物。白物。愚なる物。馬鹿。
 しろかね。白金。銀。
 しろしめす。知召。治め給ふ。
 城を枕にす。城の陥落と運命を共にする。

す

すあし。素足。徒跣。はだし。
 すうがふ。數合。合戦數回。
 すきかげ。透影。透いて見える影。
 すぎがてに。難過。過ぎ難く。
 すぎはひ。生業。なりはひ。
 すきもの。好者。其道に熱心な人。好色
 の人。
 すきをこらす。癡數寄。風流文雅の技
 に心を碎く事。
 すくすぐに。健かに。滞らず速かに。
 すくせ。宿世。前世。前世の宿縁。
 すくなるひと。直人。立派な人。罪な
 い人。正直な人。
 すげのをかさ。管小笠。管にて編んだ
 笠。
 すざ。從者。家來。
 すざき。洲崎。海中に差出て居る沙原。
 すずかけ。蓑懸。修験者の服の上に被ふ
 衣。
 すずどけ。鋭。鋭しげ。猛しげ。

すその。 裾野。山麓の野原。
すそわのたゐ。 裾回の田居。山の麓の
 ほとりにある田。
すだち。 巢立。雛が巢から飛立つ事。直
 立。眞直に生ひて居る木。
すたりひと。 廢人。役に立たぬ人。
すつぱだか。 赤裸。まるはだか。
すてうゑ。 捨植。植ゑた儘手入せぬ事。
すてころし。 捨殺。見捨て殺。
すのこ。 簀子。竹を編んだもの。
すばこそ。 ソラコソ。事變起つた時のか
 け聲。
すびつ。 爐のたぐひ。
すべからる。 爲べき事には。宜しく。
すみか。 住所。
すみぞめ。 墨染。黒色の衣。僧服。
すみそめの。 墨染。夕闇などの枕詞。
寸鐵人を殺す的の語。 語簡にして意
 味の深い警語。
ずらう。 受領。國守國司。
ずりやう。 受領。全上。
ずゐえん。 隨縁。佛縁に隨ふ事。

すゐかん。 水干。糊を用ゐず水張にして
 干した紐。
すゐぎよ。 水魚。水と魚との干係相離る
 べからざる事。親友の間柄等を之れに譬
 ふ。
ずゐじん。 隨身。貴人に附隨する近衛兵。
すゐじやく。 垂跡。迹を此地に垂れ出現
 する事。
水は泡に歸す。 無効となる。水の泡と
 なる。
ずゐぶん。 隨分。分相應に。可なり。
すゑおそろし。 末恐。後來恐るべき事
 だ。
すゑたのもし。 末頼。後來が有望だ。

せ

青雲の志。 四方の志。天下の志。
せいさう。 星霜。年月。
生殺の權。 人の運命を支配する權力。
生殺與奪。 人を生かし殺し物を與へ奪ふ
 事。
せいし。 青史。歴史。

せいしん。星辰。年月。
盛者必滅。盛な者も必ず衰ふる時ある事。
齊東野人之語。妄説。
せいまう。青盲。あきめくら。
せいやう。青陽。春。
せいらい。生靈。人間の命。人間。
霄壤の差。天と地との差。大したちがひ。
せうそこ。消息。おとづれ。たより。
せうと。兄。
せうへい。笑柄。笑ひぐさ。笑ひ種。
せうもち。抄物。書物。
せがい。脊權。ふなたな。
せきあぐ。すすり泣する有様。
せきあへず。不敢塞。塞く間もなく。止むる間もなく。止めかれる。
せきくだす。塞下。水流を塞いで他方に流下せしめる。
席巻の勢。席を巻く様に勢が盛大な事。
せきこむ。急込。息がせく。息がつまる。

せきしゆ。赤手。資本なく。何も持たず。
せきたてる。急立。促す。急がせる。
せきとどむ。塞止。水流を塞き止める。
せきや。關屋。關所の建物。
せきる。堰切。塞き止める。さへきる。
せこ。勢卒。勢子。獵の時鳥獸を驅り出す夫卒。兄子。女より男を親しみて呼ぶ語。
せちに。切。折角。強て。瀕りに。
せち系。節會。朝廷に於ける節日の集會。
せつき。節季。十二月末。
切差。琢磨。大に勉強する事。
せつしやう。殺生。生物を殺す事。
せつたう。節刀。使臣に使の標として興へる刀。
せつど。節度。指圖。
せて。しないで。[音もせて]。
せと。瀬戸。迫門。海峽。
せど。背戸。裏門。
せに。狭に。狭い有様に。狭く。
是非に及ばず。彼れ是れ言ふに及ばぬ。
せぶみ。瀬踏。川の深淺を踏んで計る事。

物のためしを爲る事。

せむかたなし。 如何にすべきかを知らぬ。しかたがない。

せんく。 先驅。さきがけ。

前後も知らず。 知覚なく。夢中になつて。

せんざい。 前栽。庭の植込。

千歳一遇。 千年に一度遇ふ。極く稀な事。

せんじ。 宣旨。敕。みことのり。

せんしやう。 先蹤。先例。先規。

せむすべをなみ。 無爲便。詮方なきに、爲やうがないので。

せんぜらる。 先。さきんぜらる。

せんだつ。 先達。案内者。先輩。

梅つばな檀たんは二葉より芳ばし。 偉人は幼少の時すでに他人と異つてえらい所がある。

前まへ轍わづらひを踐む。 前まへの人のやつた事を再びやる。

せむなし。 無詮。甲斐がない。仕方がない。

漸しだを追うて。 漸次。段々。

せめて。 強ひて。少なくも。

せめての。 幾分かの。

せりふ。 臺詞。俳優が舞台にて述ぶる詞。

そ

そうから。 總角。あげまき。小兒の結髪法。

そうざい。 總菜。食事の菜が多くの人に一樣に供へられる様に調理する事。

そうじて。 總。凡て。おほよそ。

そうばつ。 總髮。月代を作らず總束する髮の結び方。

そうもん。 總門。外構への第一の正門。

惻あはれ憐れんの心。 傷はしく思ふ事。氣の毒に思ふ事。

そくか。 足下。あなた(尊稱)。

そくさい。 息災。無事。

そくたい。 束帶。正禮の裝束。

そくへのきはみ。 退邊極。遠隔の土地の果迄も。

そこのずさ。 貴君の從者。

そこはかとなる。 どこだと言ふ事なく。

そこひ。底に同じ。
 そこら。其邊。許多。澤山。
 そそのかす。慫慂する。勤むる。
 そそりたつ。聳え立つ。
 そぞろあるき。漫歩。ぶらぶらと歩く事。
 そつくび。素首。頸。首。しゃっ首。
 そでのしづく。袖霰。涙。
 そとがち。外勝。心が何となく屋外に向ふ傾がある事。外出がち。
 そとば。卒都婆。塔婆。
 そなたのそら。向ふの空。
 そねがもと。其根の下。
 そのかみ。昔。往時。
 そばそばし。稜々。よそよそしい。かどたつて居る。仲がわるい。
 そばむ。側へ向ける。反目する。
 そびやかす。聳かす。高く立てる。
 そびら。背。せなか。
 そぼふる。シボシボと雨が降る。
 そまびと。杣人。樵人。きこり。
 そまやま。杣山。杣にした山。材木をと

る山。
 そんい。存意。考へ。
 ぞんぐわい。存外。案外。思ひの外。
 ぞんぶん。存分。思ふまま。任意。
 そめいろのみね。蘇迷盧山。須彌山。
 そめわけ。染分。色を分けて染める事。
 そめじ。あなた(女の用語)。
 そや。征矢。戰陣に用ゐる矢。(鏑矢と區別して言ふ)。
 そよふくかせ。ソヨソヨと吹く風。
 そらあひ。空合。空模様。
 そらおそろし。空恐。何となく大に恐ろしい。
 そらごと。空言。虚言。うそ。
 そらたのめ。空頼。空しく頼みに思はせる事。
 そらにははかる。天に聳える。天に廣がる。
 そらにみつ。見於空。大和の枕詞。
 そらをかすめてとぶ。掠空而飛。空中を急に飛び行く。
 それがしの。某の。或。

た

たいがらん。大伽藍。大きい寺。

たいぎ。大儀。御苦勞。

たいと。泰斗。泰山北斗。尊敬すべき人。
模範になる人。

たいめ。對面。面會。

たうのてき。當敵。目前の敵。差富りの敵。

たかがり。鷹狩。鷹を放つて狩する事。

たかどの。高殿。樓。家を重ねて造つた建物。

たがね。鑿。鋼鐵の小刀(水晶の彫刻などに用ゐる)。鋸の古名。

たかみくら。高御座。天皇の御位。

たきぎこる。薪木を切る。

たきつ。沸き上る。逆巻く。

たきつぼ。瀧壺。瀧の下にある淵。

たきび。焼火。篝(かがり)の火。

たきる。沸き上る。逆まく。

たけがり。茸狩。山野にきのこを探す事。

たけたち。丈立。身長。身が大きくなり。

たけなは。酣。闌。最中。眞盛。

たけのしたみち。竹の生へた下にある道。

たけりにたける。猛る。猛烈にあげれる。

たご。田子。農民。田人。

たごし。手輿。人の手で擡げ行く輿。

他山の石。不善の人も善人の徳器を磨き益す具となる事あるを言ふ。

たしやう。他生。前世。

たそがれ。黄昏。夕方。

たたらがみ。疊紙。ふところ紙。

たたらにあらじ。只事であるまい。大變の事であらう。故あり相だ。

ただずまひ。立つて居る有様。

ただなか。直中。最中。眞中。

ただなつく。疊みなせる。疊まつて居る。

ただなはる。重なり合(居る。疊まつて居る。

ただならず。大變の事だ。故あり相だ。

ただひと。平凡な人。尋常の人。

たてへごと。稱言。徳を擧げほめ言ふ事。

たちうちのわざ。太刀にて闘ふわざ。
たちど。立處。立つ處。
たちば。立場。立脚地。見地。
たちふるまひ。立振舞。舉動。
たちゐ。起居。起ち又居る事。起居動作。
たづ。田鶴。鶴に同じ。
たづき。手着。方便。よすが。
たづさばる。關係する。關はる。
たつじん。達人。名人。奥義に達した人。
たづら。田面。田の表面。田のも。
たてこもる。楯籠。籠城する。
たとしへなし。無譬。他に是に及ぶ者
 ない。
たどたどし。慥でない。詳しくない。
たどりもあへず。不敢進。知らぬ道に
 迷つて居る間もなく。不知案内ノ路に迷
 て居る。
たなはたつめ。棚機津女。機を織る女。
 星の名。
たのうだひと。頼んだ人。頼りにする
 人。主人。(狂言に言ふ)。
たのも。田の面。田の表面。

たのもし。頼み甲斐ある。有望である。
たのものかり。田の面に居る雁。
たばかる。手謀。計略を廻らす。考へる。
 欺むく。
たばしる。走る。進む。
たばでも。賜はらても。賜はらなくとも。
たばやすかり。たやすくあり。容易で
 ある。
茶を毘び一片の烟。火葬をする事。
たびごろも。旅衣。旅に着る衣服。
たびたつ。旅立。旅行に出かける。
たびね。旅寝。旅にあつて寝る事。
たひらぎ。成ぎ。和睦。平和。
たぶらかす。欺く。
たへたる者。堪能な者。勝れた者。
たまあひて。魂合。意氣投合して。
たまくしげ。玉櫛笥。明く蓋。箱等の枕詞。
たまくら。手枕。腕を枕にする事。
たまたま。會。丁度。其折。
たまのみこゑ。玉御聲。天子様の御言
 葉。
たまのを。玉緒。息の緒。生命。いのち。

たまほこの。玉梓。道の枕詞。

たままつるわざ。祭魂業。死人の魂を祭る行ひ。

たまもの。賜物。賜はつたもの。下さり物。

たまもゆららに。ユラユラと玉が動く様。

たみぐさ。民草。人民ども。

たむかふ。手向。敵對する。

たむく。手向。神佛に奉る。饞別する。

たむけ。手向。手向くる事。

たんせい。丹精。熱誠。

たんせい。丹青。彩色繪。

たんのう。堪能。勝れく居る事。

ためつすかめつ。片目で見たり眇(すがめ)になつたりして。

たより。音信。方便。

たらちねの。母の。母の枕詞。

たれこむ。垂籠。帳簾などを懸け内に籠つて居る事。

たをやめ。手弱手。柔和な女人。

ち

ちあえ。血あえ。血を流す事。名譽を損ずる事。

ちあき。千秋。多くの秋。

ちいん。知音。親しい友。

豊^ち夜^兼行。晝夜の區別なく急ぎ行く事。

ちからだて。力立。力業。ちからわざ。

ちきさん。直參。直ちに來る事。直隸(陪臣の反對)。

ちぐさ。千草。多くの草。

ちくばく。竹帛。歴史。

竹^馬の友。幼少なる時の友達。

ちげにん。地下人。宮廷に仕へる公卿以外の人。

ちご。乳子。乳呑子。赤子。子供。

ちしほ。血潮。血の流れ出るもの。

ちちのみこと。父命。父上。

ちちのみの。乳實。父の枕詞。

ちなみて。因。によつて。にたよつて。

ちぬのうみ。茅渚の海。大坂灣。

ちのみご。乳呑子。幼兒。乳を呑て居る兒。

ちはふ。幸。さちばふ。幸を興へる。

ちはやぶる。千早振。神・宇治の枕詞。

ちびきのいは。千引岩。千人で引く程の重く大きな岩。

ちひろのそこ。千尋底。極く深い海の底。

ちふさ。乳房。乳。

ちぶつたう。持佛堂。持佛又は祖先の位牌所。

ちぶん。知分。知識。

ちへなみへなる。千重波隔。多くの波を隔てて居る。極く遠い。

ぢみ。地味。質朴。飾りない事。

鎮守^{ちんしゆ}の社。一村一郷の守り神を祭る社。

長袖^{ちやうそ}の人。長き袖を着けた人即ち公卿。

ぢやうやど。定宿。定つて泊る旅宿。

中陰^{ちゆういん}。人死んで後四十九日間(七七)を言ふ。

中元^{ちゆうげん}。七月十五日。

中間^{ちゆうかん}。中間男。しもべ。

仲秋^{ちゅうしゅう}。陰曆八月。

ちゆうしん。注進。報知。申報。

ぢゆうだいの。重代の。世々の。

ぢゆうぢ。住持。住職。

ちよくかん。救勘。天子よりの財當。

ちよくん。儲君。よつぎたるべき君。

千代^{ちよ}田^たの城。江戸城。

ぢよや。除夜。大晦日の夜。

ちよろづの。千萬。澤山の。

ちりひぢ。塵泥。塵埃泥塗。

ちりほふ。散亂。ちらばる。ブラブラして居る。

つ

ついたて。衝立。屏風的一種。

ついち。築地。つきぢ。土塀ノ類。

つひぢ。全上。築牆。

つうじん。通人。達人。野暮ならぬ人。

つうじん。花柳界の事情に通じて居る人。

つうてう。通牒。通知。知らせ。

つかさひと。司人。役人。

つかなみ。葉を編んで作った敷物。

つかのみ。 束間。一寸の間。
つきあかり。 明月。月の光。
つきちらす。 吐き散らす。
つきつきし。 付々。似合ふ。適合する。
つきのかつら。 月桂。支那の傳説に月の中に桂樹が生じて居ると言ふに依る。
つきのもの。 附の者。従者。監督者。
つきばぎせる。 ぼろをつぎ合せた。
つきひのをぐるま。 月日小車。月日の経過の早いのを車が回轉するの早きに譬ふ。
つくづく。 つらつら。能く念を入れて。
つくりやまぶし。 作山伏。偽山伏。
つごもり。 月隠。みそか。晦日。
つじかせ。 辻風。旋風。旋り吹く大風。
つじだう。 辻堂。十字街の側に立つて居る佛堂。
つちみくむ。 組土居。周圍に壁のやうなものを造るを言ふ。
つつがなし。 無恙。息災。無病。無事。
つつみなく。 無包。腹藏なく。思つて居る儘。

つつむにあまる。 包みきれぬ(物の數多く又は情が餘りきつて)。
つづらをり。 葛折。甚しくうねり曲つた坂路。
つづれのころも。 襤褸。破れたのを綴り縫つた衣。ぼろ着物。
つど。 都度。其度毎に。
つとに。 夙。早朝に。
つとめて。 翌朝早く。
つなで。 綱手。船にかけて引く綱。
づにのる。 乘圖。輿に乗ずる。
つねのさん。 恒産。一定の財産收入。
つづくに。 津國。攝津の國。
つのおえ。 角笛。獵の時に吹く喇叭。
つばな。 茅花。茅の花。茅。
つばもの。 兵士。武士。
つぶさに。 具。詳しく。明細に。
つぼね。 局。宮殿の中に隔てて建てた室。局を有する女官の稱。
つまき。 爪木。小さい薪のたぐひ。
つまさきあがり。 爪先上。上りの坂路。
つまど。 妻戸。殿の四隅にあつて人の出

入する戸口・兩方に扇開す。

つまみ料理。粗末な料理。

つや。通夜。よどほし。

つゆのよすが。霜露をしのぐたより。

つゆばかりの。露許。少し許りの。

つゆ(ほども)。露程。少しも。

つら。面。列。ならび。前面。

つらつら。つくづく。念を入れて。

つらら。氷柱。たるひ。

つれづれ。徒然。さびしく暮す。

つれて。連れて。従つて。

つれなき。無情な。寄るたよりもない。

つみな。追難。おにやらひ(昔は大晦日の晩今は寒の明けた日に行ふ)。

て

であひがしら。出遇頂。雙方より偶然ハタと行き當つにはずみ。

ていど。亭午。正午の時。

ていしゆの道。程朱。程子朱子の説いた教。

ていたく。手痛。烈しく。手強く。

ていぢよ。庭除。庭先。

ていりさき。出入先。出入して居る家。

花客。

調子に乗る。調子に伴ふ。調子に連れる。

てうど。調度。諸道具。弓矢。

てうり。調理。料理。

ておちなし。無手落。用意周到。手ぬけない。

ておふ。手負。負傷する。

てかかせ給ふ。手書給。文字を御書きになる。

てかせぎ。出稼。他地方他國に出て(稼ぐ事)。

てがた。手形。馬に乗る爲鞍に刻みある部分。

てかひ。手飼。自分の家に飼ひ置く事。

てがらみ。手摺。腕ぐみ。

てきたふ。敵對をする。てむかふ。

てこめ。手込。無理に他人の權利を處分する事。他人を束縛する事。

てごろ。手頃。自分の力量に相應な事。

てしほ。出汐。出る機。
 てすさび。手遊び。
 てせい。手勢。手したの軍勢。部兵。
 てだすけ。手助。他の仕事を助ける事。
 手傳。
 てだれ。手足れ。巧手。巧な事。
 てづから。手自。みづから。自分の手で。
 てつじん。哲人。勝れた人。
 徹頭徹尾。始から終まで。
 てにす。手に爲。手に持つ。
 てにとるごとし。手に取る様である。
 極く近い。明白である。
 てになる。手に成る。製作する。書を著
 けす。
 てぬるし。手緩。緩漫。
 てのうち。手内。掌。乞食僧などに施す錢。
 てはし。手をば。
 てびきくさ。手引草。案内者。
 てふ。と言ふ。〔聞くてふ〕〔聞くといふ〕。
 喋々す。口やかましくしゃべる。
 てぶり。手風。風俗。
 てま。手間。暇。時間。手間賃。

てまる。出丸。城を離れて築いた廓。枝
 城。
 天^て佑^{たすけ}と神助。天のたすけと地の助け。
 天^て顔^{かほ}に咫尺^{咫尺}す。天子に拜謁する。
 電^{てん}氣^きに打たれたるが如し。ぞつと
 する(喜憂の變事を聞いて)。
 てんじやうひと。殿上人。昇殿を許さ
 れた官人。雲客。
 天^て壊^{くわい}無^む窮^{きゆう}。天地と共に永久なる事。
 天職。天から授かつた職分。命令。
 てんぢく。天竺。印度。
 天にも地にも。どこにも。たつた。只
 だ。
 天の配劑。天の萬物を造る配合調合。
 展望^{てんざん}を便^{べん}にす。遠くを見はらかすに便
 宜をよくしてある。
 てんま。傳馬。驛々で公用の爲に出す馬。
 天^{てん}馬^ば空^{くう}を行^いく。駿馬の走る事を形
 容する句。
 てもちなぐ。無手持。たより所なく。て
 もらぶさたて。
 てよ。て呉れよ(命令又は希望)。書いてよ。

てをくだす。下手。處分する。

てをのばす。延手。従事する。事業を擴張する。手をつける。

と

とある。某の。或。

どうき。動機。心のきざし。源因。

投と機めめく。山師らしい。

同日の論に非ず。比較にならぬ。

どうしん。道心。佛道を信ずる心。菩提心。

どうじん。同人。志を同うする人。門下。

動とぎずる色なし。驚いた顔色もない。

とうで。取出。取り出で。取り出して。

どうれう。同僚。同役。同輩。

斗と牛ぎを吞む。氣の大きな事。

ときえつつ。時得。時を得たりとし。好機會なりとし。榮えて。

ときじくぞ。四時を分たず。年中。

ときじくものから。四季を分たず常に雪が降り積つて居るものながら。

ときたま。時會。たまたま。

ときのみ。時間。一寸の時間。

ときのみひかび。時の間の日影。一寸の時間。瞬間。

ときんば。時ンば。時は。

ときめきし。得意であつた。榮えた。

どきやう。讀經。經文を讀む事。

ときゆ。從時。時以來。時から此のかた。

ときよ。渡御。御出になる事。いでまし。

ときをまつ。待時。時機の來るのを待つ。

とくいげに。得意氣。得意な風に。

とくしつ。得失。損得。利害。

とくしん。得心。了解。納得。承諾。

特と筆の大な書と。特別に大きく書く事。

特に注意を拂はせる様に力を入れて記載する事。

度と外わ視す。眼中に置かぬ。輕蔑する。

とこし(な)へに。永久に。長く。常に。

とこよ。常世。永久的の世界。別世界。

ところえがほ。所得顔。得意な風。

ところがら。處柄。場所柄。所の有様。

ところせきまで。處狹迄。場所が狭い程。

ところをおかず。 不置處。不遜。從順でない。不敬。

とざま。 外様。外藩。徳川の家門にして譜代ならぬ名。

とじ。 刀自。主婦。[母刀自]。

としがさ。 年嵩。齡の他人より多い事。

としかさねたる後。 重年。數年の後。

としたけたるひと。 年長の人。

としたちかへる。 年立還。年が新になる。新年になる。

としつめる。 年積。ながいきする。長命する。

としもいふは。 と言ふのは。

とじやう。 登城。城に參る事。

としゆかぬ。 年不行。年少な。

とす。 賭す。かける。かけにする。

とそのさけ。 屠蘇酒。元旦に飲む酒。

とたん。 途端。折に。はずみに。

塗炭の苦み。 塗炭をふみ炭火に墜ちて救ふものがない場合のやうなひどい苦しみ。

とつび。 突飛。突然。奇抜。普通でない事。

とてものことに。 到底事。いつその事に。寧ろ。到底だめだから。

ととこほりなく。 無滞。絶えず。怠たらず。故障がなく。

とどめく。 轟く。がやがやする。

とどろに。 鳴りひびいて。轟然。

とねり。 舍人。昔に於ける宮廷の賤しい役人。

とのごとし。 如堵。牆のやうである。

とのもりつかさ。 主殿寮。昔の宮廷の役人。

途と方々に暮る。 ほんやりする。茫然たり。

どばかり。 一寸許り。

とびあがらむずらむ。 飛び上るだらう。

とへにはたへに。 十重二十重。嚴重に。幾重にも。

とほあさ。 遠淺。海邊にて遠方迄水淺き所。

とほさく。 遠退。遠く退く。遠く退ける。

とほすめるぎ。 遠天皇。古のみかど。

とま。 苔。船の上側などに覆ふ菅茅等製の屋根。

とまれかゝまれ。 兎もあれかくもあれ。兎も角も。

とみに。 頓に。俄に。

とみれば。 不圖見ると。

とんご。 頓悟。俄かに悟りをひらく事。

どんしうのうを。 吞舟の魚。舟をまる吞にしさうな大きな魚。

とんや。 とひや。問屋。卸店。

とものがき。 友垣。友達。

ともすれば。 動もすれば。どうかすると。

とやせましかくやあらまし。 どうしやうかかうしやうか。

とやま。 外山。手前の方の山。端の山。

とよさかのぼる。 豊榮登。盛んに光輝を放つて昇る。

とよみき。 豊御酒。神酒と同じ。みき。

どよめく。 響かし騒ぐ。

とよりかくより。 あちこち。

虎の尾を履む恐。 戦々兢兢たる有様。

とりさばき。 取捌。裁判。

とりたての。 取立。今取つた計りの。採用の。

とりどり。 取々。思ひ思ひ。銘々。まぢまぢ。それぞれ。それぞれめでたい。何れも結構。

とりのあと。 鳥跡。筆跡。文字。

とりひき。 取引。賣買。

とりもなほさず。 不取直。其まま。換言すれば。すなはち。

とりわき。 取分。殊に。

とるものもとりあへず。 何物をも携へ行く暇もなく。直ちに。急いで。

度々を失ふ。 うろたへる。狼狽する。

な

ないがしろにす。 爲無代。蔑にする。

無きが如くに輕蔑する。

ないどころ。 内侍所。八咫の鏡を安置し奉る温明殿。

ないど。 内帑。内部の財政。御手許金。

なうり。 腦裏。腦の中。頭の中。考。

ながきねむり。 永眠。死んだ事を目ふ。

ながつき。長月。舊九月の稱。
なかなか。却て。たいさう。
なからひ。中合。間柄。
ながらふ。存命。長く世にある。長いきする。
ながれや。流矢。それ矢。どこから飛んで来たか分らぬ矢。
ながれをくむ。汲流。川水を汲む。流派に屬する。
なぎさ。渚。波が打ち寄せる海岸。
なきさかる。鳴盛。盛に鳴く。
なきひと。亡人。死んだ人。
なごりなく。無名残。残なく。餘韻なく。
なじかは。なにかは。何とて。などで。
なしぢ。梨子地。蒔繪に梨の實の黒點のやうに金銀の粉を附けたもの。
なしつぼのごじん。梨壺の五人。大中臣能宜・清原元輔・源順・紀時文・坂上望城。
な…そ。勿れ。[な忘れそ](忘れるな)。
なたたる。名立。有名なる。
なだれ。雪頽。崩れてすべり落る事。
なつき。夏着。夏期に着る衣服。

なつこだち。夏木立。夏期に繁茂して居る林。
なづさふ。馴れ親しむ。なじむ。
ななつさがりの。セツ下り。四時過の。着物の色がさめた事。
ななめどり。七回。死人の七回忌。
ななめならず。不斜。少し許りてない。
なにくれ。何やかや。いろいろ。
なにしおふ。負名。名に相當して居る。有名な。
なにとして。どうして。
なにとぞして。どうかして。
なにならず。何でもない。皆無である。
なにばかりの事。何許事。何程の事。
なにもかも。何でもかんでも。
なにやらむ。何か知らぬが。
なぬし。名主。庄屋。年寄。
なはめ。繩目。繩で縛られる事。繩のよ
 り程度。
なびきこいふす。平に伏し轉ぶ。
なべて。一般に。竝べ立てて。
なべてならぬ。一通ならぬ。大仕懸の。

なべに。 に連れて。と共に。
なほかれ。 直くあれ。正直であれ。正しかれ。
なほざりに。 等閑に。不注意に。ゆるか
 せに。
なほし。 直衣。官服の名。
なまあたか。 生暖。ホッと暖い。
なまさかしげ。 生賢氣。生意氣に。
なまじひに。 愁。なまなか。かへつて。
なまぬるき風。 生温。ホヤホヤと温き
 風。
なまむつかし。 生六敷。煩はしい。う
 るさい。
なまめく。 しなやかに美しい。婀娜。
なまものしり。 生物識。生學者。儒學者。
なまよひ。 生醉。半ば酔ひ居る事。生よ
 ひ。
なみ。 無さに。無いにより。「力なみ」。
なみごしに。 波越。波の上遙か向ふに。
なみだぐむ。 涙を催す。涙を流す。
なみたとどめあはず。 不致止涙。涙
 を止むる間もなく。涙を止めきれぬ。

なみだにくる。 涙を流して許り居る。
なみだのたね。 涙種。涙を催させる源
 因。
なみだをのむ。 飲涙。遺憾なる有様。
なみだをばらつて。 拂涙。慨嘆しなが
 ら。
なみなみの人。 竝人。普通の人。
なむさんぼり。 南無三寶。事成らぬ時
 發する歎聲。
なむず。 なむと意同じ。推量の辭し候ひ
 一。
なんてふ。 何條。なでふ。なんて。なん
 とて。なんと言ふ。
なんなむとす。 垂。爲りなむとす。垂
 らむとする。及ぼうとする。
なめげ。 無氣。禮儀を心得ぬ風。無禮。
なめしかれど。 無禮だけれど。
なめて。 並て。並べて。
なやましかるべきみち。 なやましい
 路。困難なるべき路。
なよやか。 なよなよと。すなほに。
ならく。 奈落。地獄。

ならひあること。有習事。深い理由ある事。

ならびなき。無比。比類ない。第一流の。

なりところ。田宅。別荘。

なりとよむ。鳴り響き渡る。

なりはためく。鳴り響く。

なりはつ。成果。なつてしまふ。

なりはひ。生業。家業。

なりをしづむ。静鳴。静蕭にする。

なるかみ。鳴神。雷。

なるこいた。鳴子板。

なれるはて。成果。運衰へ今日のつまり。

ぬ身になり下れる事。零落した様。

なをおほせて。頁名。命名して。

に

にかよふ。似通ふ。互に似て居る。

にがりきる。苦切。にが相な厭な顔をする。

にぎめく。賑かな様である。にぎにぎし。

にくさげ。憎氣。にくらしい様。

にくはく。肉薄。近く迫る事。

にげなき。無似氣。似相もない。不相應な。

にげのぶ。逃延。遠くにげて行く。

にこやかだ。にこにこ。ものやはらかに。

にぞりにしまず。濁水に染められずに。

にじのはしけた。橋桁の虹の形に似たもの。

にじゆ。二豎。病氣。

にちりん。日輪。太陽。

につかず。不似付。似ない。

につぼんいち。日本一。最もよい(謡曲)。

にのや。二の矢。第二に射る矢。

にはかちやうじや。俄長者。俄金持。

俄かに成り上つた富豪。

にふもん。入門。入學。弟子入。

にんくわ。人果。人間の果報。運命。

にもつかず。不似付。少しも似ぬ。比較するものがない。

によふによふ。呻吟しながら。うなりつつ。

にるものなし。無似者。比べるものがない。

仁に王多立。仁王が立つて居る様に。

ぬ

ぬえのごとき。如鶴。始と終と一致せぬ。

ぬかつく。叩頭。額つく。禮拜する。

ぬからぬ顔。失敗した事を顔に表さぬ事。

ぬきんづ。抜き出づ。秀てる。大に勝る。

ぬけめなし。無抜目。注意周到。

ぬためのかぶら。鹿角の縮矢。

ぬぼこ。瓊矛。瓊(たま)にて飾つた矛。

ぬ

ぬいじつ。寧日。安心な日。治まつた時。

ぬいろ。音色。おとの工合。韵。

ぬおびる。廢惚。れぼける。

ぬがはくは。願ふ事には。

ぬぎごと。祈事。乞ひ願ふ仕業。

ぬぎらふ。犒ふ。勞を謝する。

ねこじて。根堀。根の儘堀り取つて。

ねざし。根差。根が土中に延る事。根底。基礎。

ねざす。根差。根元する。起因する。根が土中に延びる。

ねさめ。寢覺。寢て居るのが覺める事。

ねたまし。れたむべくある。甚だしく恨む。

熱^{ちゆう}中^{ちゆう}す。熱心になる。心をこらす。

ねのひのあそび。子の日の遊。正月の子の日に野山に出て遊ぶわざ。

ねはん。涅槃。釋迦の入滅。

ねびとどのふ。大人の様に身心發達する。

ねびまさる。老成。大人風に見える。

ねまちのつき。廢待月。廿九日の夜の月。

ねんじわぶ。念侘。こらへる。忍ぶ。こらへ兼ねる。

ねんず。念ず。祈る。こらへる。

年中行事。一年の間に行はれる常例の儀式又は祭事等。

念^{ねん}頭^ずに掛^かく。心配する。考の中に置く。

ねもころ。懇。ねんころ。深切。

ねや。廢屋。廢所。

の

のうのう。ヤアヤア。呼かけの詞（謠曲等）。

のかひ。野飼。牛馬を野に飼ふ事。

のきさま。退様。避ける工合にして。

のきのたまみづ。軒玉水。軒から雨水が玉の様にしたたる事。

のこるところなし。無所殘。到らざる處がない。遺憾ない。

のぎきのつかひ。荷前使。年末に十陵八墓に幣帛を奉る事。

のすゑ。野末。野のはて。

のたまふ。宣賜。仰せられる。

のどまる。静かになる。ゆつくりとなる。

のら。野に同じ。

のりかともしび。法の燈。後世を吊ふ燈火。佛に供へ奉る燈火。

のりもの。賭物。勝負にかけるもの。

のあき。野分。秋冬の頃に吹く暴風。

は

はいがい。沛艾。馬の勇ましい状。

はいしよ。配所。流罪に處せられた地。

はいす。陪。附き従ふ。伺候する。侍る。

はいたい。胚胎。根ざす。生ぜしめる。

はらいつ。放逸。氣儘。

はらどわん。判官。官名。長官。

暴^は虎^と馮^ひ河^か。虎を手搏にし河を徒渉す。向見ず。

はらしん。放心。心の身に添はぬ事。うつかり。

傍^は若^じ無人。側に人なきが如くに傲慢な事。

はらぞく。放俗。凡俗。無風流。品格を失ふ事。

はかせぶる。博士振。物識振をする。學者ぶる。

はかなくなる。死去する。

はかなし。つまらぬ。一時的である。假

初。

はがゆい。齒痒。もどかしい。思つて居る事に手が届かぬ事。

はからずも。不計。思ひかけずも。不意に。

はからひ。計。謀り事。

白^は駒^は隙^はを^は過^はぐ。年月の経過の早きを言ふ。

はぐくむ。はごくむ。養育する。

はくげきの友。莫逆友。親友。

はくちゆうす。伯仲。優劣ない。

はくまつ。幕末。幕府時代の末期。

はぐくむ。はごくむ。養育する。

はこやのやま。競姑射の山。仙人の住所。仙洞御所。上皇の御所。

はざま。迫。間。あはひ。

はざまをたばふ。矢間を庇ふ。互に甲冑をゆり合せて矢さきの入る隙間のない様にする事。

はしたなきわたらひわざ。一定せぬ職業。つまらぬ用。

はしたなろ。あさましく。どつちつかず

に。愛相なく。

はしつめ。橋詰。橋の麓。

はしなるも。無端。不圖。ゆくりなくも。

はしのたもと。橋袂。橋の根。橋際。

はしばし。端々。断片。多くの事柄。

はしりでのつつみ。走出堤。門に近い堤。

はしりのせい。走食。年中に初めて出た物を食ひなどして贅澤をする事。

はしめ。端居。家などの端に出て居る事。

はしをひく。引橋。橋を落す。

はす系。塙末。本塙の賑かな處を離れた處。

はそで。羽袖。羽を袖に髣ふ。

はたたかみ。霹靂。烈しい雷。

はたつら。畑面。畑の表面。

はたて。盡。果。限り。際涯。

はたと。物の相當る音。目と目とが相遇ふ場合に言ふ。

はたへ。二十重。幾重にも。

はたほこ。幢。鋒に小旗を付けたもの。

はたもと。旗本。徳川の幕下知行萬石以

下を指して言ふ。

はたをしほる。 綾旗。旗を疊んで其上を何かでしぼる。

はちあはせ。 鉢合。不意に頭と頭とが相當する事。

はぢあるひとや。 有恥一矢。面目ある一本の矢。いさぎよい一本の矢。

破竹の勢。 敵對するものがない様な勢。

はぢしむ。 恥しむ。はづかしめる。恥をかくやうにする。

はちす。 蜂巢。蓮。

はつき。 葉月。舊八月の稱。

はつらわら。 八荒。八方荒忽極遠の地。

はつづき。 初月。三日月。

はつめい。 發明。賢い事。

はてなき。 無果。際限ない。無限の。

はては。 果。遂には。しまひには。

はでやか。 華美。美々しい。

はなくもり。 花曇。花の時候に空が一般に曇つて居る事。

はなごよみ。 花暦。花が咲いたのによつて時候を知る事。

はなしのたね。 話種。話の材料。

はなしろむ。 鼻白む。心おくれする。

はなすすき。 花薄。薄の穂に出てたもの。

はなたちはな。 花橋。橋に同じ。

はなつま。 花妻。花を妻に譬へて言ふ。

はなのえん。 花宴。櫻花を觀稱する酒宴。

はなのふぶき。 花吹雪。花が吹雪のやうに散る事。

はなむけ。 錢。贖。錢別。手向。馬の錢。

はなやか。 華美。うつくしい事。

はなをあかせる。 鼻を開かせる。恥をかきせる。恥を興へる。

はに。 埴。黄赤等色ある土の名。

はにふのやど。 埴土の宿。賤が屋。

ははぎ。 母木。母たる樹。親木。

ははき。 脛布。脛に纏ふもの。脚絆。

ははご。 母御。母上。

ははそはの。 柞葉の。母の枕詞。

ははとじ。 母刀自。母なる主婦。

はひまつはる。 這ひからまる。

はふ。 羈府。幕府。

はふに。 白粉。おしろい。

はふはふ。 這々。這ひながら。
はふり。 祝部。神官の職名。
はふりおつ。 放落。ハラハラと落る。
はまちどり。 濱千鳥。濱邊に居る千鳥。
はまで。 濱手。濱の方。
はまびさし。 濱庇。濱邊にある家。ひさしの序に用ゐる。
はまゆふ。 濱木綿。草の名。
萬機の政。 多くの樞機即ち政治。
はんけい。 萬頃。非常に廣い事。
半^は夏^は生。 夏至以後第十一日目。
萬戸候。 多くの領地人民を持つて居る殿様。
盤^は根^こ錯^せ節^せ。 艱難困苦。
はむしや。 葉武者。はした武者。
はんどうこゑ。 阪東聲。東國辯。
はんねん。 晩年。死に近くなつてから。
萬緑の候。 夏の時候。
はやて。 疾風。俄かに烈しく吹き出す風。
はやりを。 早雄。氣の猛しい事。
はやわざ。 早技。早くて巧な技術。
はやをけ。 早桶。棺に代用する大桶。

はゆま。 驛。早馬。驛馬。傳馬。
はらかばり。 腹變。父同じくて母異なる事。
はらから。 同胞。兄弟。
はらきたなし。 腹穢。根性がわるい。
はらけがみ。 亂れた髪。
はらす。 晴らす。無い様にする。[疑を——]
はらばひ。 腹這。腹を地に當て、這ふ事。
ばらふるるわざ。 腹膨業。心の中に何か残つて居るやうな氣持がする事。
ばらめきおつ。 ばらばらとなつて落下する。
はらわたちぎる。 腸がちぎれる程氣つかはしい。苦しさ甚しい有様。斷腸。
ばらをかかふ。 抱腹。大に笑ふ有様。
ばらをおる。 糞腹。大に笑ふ事。
はりあふ。 張合。競争する。
はるかす。 晴らす。
はるけき。 遙かな。
はるけやる。 晴しやる。遣悶。
はるはる。 遙々。遙かに遠く。
はるべ。 春方。春の初の氣候。

はれの。晴の。おほやけの。面目ある。
公衆の前の。

はろび。腹帯。はらおび。

ひ

ひあし。日脚。月日の経過。日影。

ひがきき。僻聞。聞きちがひ。

ひがくし。日隠。家の庇。

ひかげ。日影。日光。日光の射さぬ處。
時日。

ひがごと。僻事。僻言。悪い事。不幸な
事。不理の言。

ひがしぎま。東方。關東幕府をさす事あ
り。

ひかた。干瀉。潮が干た海岸の遠淺の所。

ひがひがし。僻々。理に適はぬ。

彼^の岸^の光明。向岸にある光。前途の
希望。

ひがめ。僻目。かたけの目。見あやまり。
間違つた考。

ひきあげがた。拂曉。あけ方。

ひきしほ。引潮。潮水が沖の方へ退く事。

ひきて。延而。其結果として。次には。

ひきでも。引出物。祝宴等の終に出す
贈り物。

ひきまゆ。引眉。剃つた眉の上に再び墨
で眉をかく事。

ひきもきらず。絶えぬ。長く續く。

ひきよう。比興。事を物に托して打興ず
る事。

ひきり。日切。日限。

ひぐらし。日暮。日を暮す事。終日。蟬。

ひげす。卑下す。謙遜する。

ひこぼえ。蘗。切株から生じた芽。

ひころ。日頃。かれてから。前かたから。

ひころへて。日頃經。日數立つて。

ひさかたの。久方。天の枕詞。轉じて雨
月星雲等をも指す。

ひさごかたむく。傾瓢。酒を飲む。

ひさめ。氷雨。雹。

びして。尾して。後を追うて。後につけ
て。

ひしと。びしびしと。強く。隙間なく。

ひしめく。聳。騒ぎ立つ。

ひじり。聖。聖人。達人。僧侶。
翡翠の御髪。みどりの黒髪。
微笑。ニッコリと笑ふ事。かすかに笑ふ事。

びそ。鼻祖。元祖。始祖。
尾が大掉はず。上弱く下が強くて制しきれぬ事を言ふ。

ひたくだり。直下。一途に下る事。一向に下る事。ひたすらに下る事。

ひたすら。只管。一途に。切に。一心に。

ひたのぼり。直上。一心に上る事。

ひたふるに。ひたすらに同じ。

ひたむきに。ひたすらに同じ。一向に。

ひたやごもり。ひたすら屋に籠り居る事。

ひちりき。箏篋。笛のやうな樂器。

ひちりこ。泥。どろ。

ひつぎのみこ。日嗣太子。皇太子。

ひつじさがるこく。未下刻。今の午後二時過に當る。

ひつじさる。未申。西南の方向。

ひつせい。學生。一生。

ひつだん。筆談。字を書て互の意を通ずる事。

ひつぢやう。必定。必ず。たしかに。

ひてん。秘傳。奧義(藝術學問等の)。

ひとりとき。人疎。人の多く居らぬ。

ひとかげ。人影。人の姿。

ひとがち。人勝。人が多い傾。

ひとかどの。一通り。一人前の。

ひとがましきみ。人らしい身。

ひとがら。人柄。人品。

ひとぎき。人聞。他人に聞える事。外聞。

ひときは。一段。一層。

ひとりさしびく。人草繁。人口繁殖して。

ひとびすくなし。人氣少。人のけはひ少ない。淋しい。

ひとこち。人心地。本心。現心。

ひとしきり。一頓。一時烈しく。ひとさかり。

ひとしづく。一雫。一水滴。水玉がポタリと落る事。

ひとしなみ。等竝。同様。

ひとしほ。 一入。一層。ひときは。
ひとすぢに。 一筋。一心に。熱心に。
ひとだま。 人魂。熾火の地から出て飛ぶ物。
ひとつて。 人傳。他人に言を依頼して意を通ずる事。寄語。
ひとて。 人手。人の助け。他人の手。
ひとてにかかる。 人手に懸る。他人の手を經る。他人に殺さる。
ひとところ。 一所。一人(尊んで言ふ時)。
ひととせ。 一歳。或年。
ひととなり。 爲人。人物。性格。たち。
ひととほり。 一通。普通。一般。
ひとなだれ。 人頽。人群が一時に崩れ落る事。
ひとなみ。 人竝。人の群集。普通。
ひとのあぎとをとく。 人の頤を解く。大いに他人を笑はせる事。
ひとのうへ。 他の上。他人の身の上。
ひとのがり。 人の許。人の家に。
ひとのなみ。 人の波。人が多く集つて動く様が波の如きを言ふ。

ひとばしら。 一柱。御一方。御一人。一所。
ひとへに。 偏。ひたすら。一途に。
ひとまちがほ。 人待顔。人の來るのを待つ様な容子。
ひとむきの言。 一向言。一方に偏し居る言。
ひとむら。 一難。むれをなして。
ひとめしげし。 人目繁。人に見られる機会が多い。
ひとめなし。 無人目。人影見えぬ。他人が近くに居らぬ。
ひともとやなぎ。 一本柳。一本の柳。
ひとや。 人屋。獄。牢屋。
ひとやりならぬみち。 人造ならぬ道。自分の心から起つて旅に出て行く事。
ひとりごと。 獨言。獨ごとをして居る。
ひとりさみ。 獨笑。獨りで笑ふ事。
ひなびたる。 鄙。田舎めく。おなか者らしい。
ひならざるに。 非日。其後間もなく。
ひねもす。 終日。日一日。

ひのて。 火手。燃えて居る火の勢。
びぼうじん。 未亡人。やしめ。寡婦。
ひまゆくこま。 隙行駒。日月経過の早
 き事。(駒は白駒にて日影を指す)。
ひんかく。 賓客。客。まらうど。
びんべん。 匪勉。善く勉める事。勉強。
ひめおろ。 秘置。秘藏する。大切に藏し
 置く。
ひめかき。 姫垣。低く小さい垣。
ひめもす。 終日。ひれもす。
ひめゆり。 姫百合。百合の一種。
ひもとく。 繙。書を披見する。書を読む。
ひやうとはなつ。 兵と放つ。矢の飛ぶ
 音。
びやうま。 病寛。病氣。
びやくえ。 白衣。白い衣物。
百歳の後。 永い年月の後には。永い中に
 は。
ひよみ。 日讀。曆。こよみ。
ひより。 日和。空晴れて静かな事。
ひらて。 平手。掌を開いた事。
ひらにたふる。 平倒。ピタリと倒れる。

ひらむ。 平。平たくする。
ひるかへす。 翻。變更する。[決心を——]
ひるまき。 蛭卷。長刀等の柄を卷いた籐
 の飾。
ひれふす。 平伏。ひらたく伏す。
ひれふる。 振領巾。女が頭にかけて居る
 布帛をアチコチに振る。
ひろまへ。 廣前。神前。
ひをけ。 火桶。火鉢。

ふ

ふうど。 風土。夫々の地方の氣候地味。
風ま馬は牛。 大に隔り居る事。無關係。
ぶらんめでたし。 武運目出度。武事に
 關して運がよく強い。
ふうらいじん。 風來人。ぶらついて來
 たる者。一所不住の人。
ふうをのぞむ。 望風。人と爲りを仰慕
 する。勢を見る。
ふかく。 不覺。不面目。失敗。
ふかくのなみだ。 不覺涙。覺えず知ら
 ずに流れ出る涙。

富嶽の安きに置く。富士山の泰然として居る様に國家を安からしむる事。

ふきだま。火齊珠。吹玉。硝子を吹いて珠に作つたもの。

ぶぎやう。奉行。武家に於ける種々の職の長。町奉行勘定奉行等。

ふきよう。不興。勘當。

ふくからに。吹故。吹くによつて。

復た活ち。蘇生。再び活動して來る事。

ふぐるま。文車。書棚に車のつきある者。

ふげいきな。不景氣な。見すばらしい。價值のない。つまらない。

ふげう。不敬。不孝。無禮。

ふげん。普賢。普賢菩薩。

ぶごたうたう。部伍堂々。隊伍嚴かに。

ぶこつ。無骨。不風流。

ふさいの間。覆載の間。天地の間。

ふさう。扶桑。日本國。

ふさはし。相應して居る。

ふししば。芝に同じ。

ふしど。寢所。ねどころ。

ふじのしやう。不次の賞。順を経ない

て特別に高級の恩賞にあづかる事。

ふしん。不審。疑はしい事。

ふしめになる。爲伏目。少し下方を向く。目を下方に注ぐ。

ふすぶる。燻。くゆらす。いぶす。

ふすま。衾。寝る時に着る衣類。

ふせ。布施。僧に與へる物。

ふせい。風情。けはひ。趣き。

ふせう。不肖。私。

ふせぜい。伏勢。伏兵。

ふせや。伏屋。小さく賤しい家。

不測の禍。思ひかけぬ禍。

ふだい。譜代。譜第。世臣。

ふたおや。二親。兩親。父と母。

ふたところ。二心。謀反。抵抗の心。

ふたん。不斷。絶えず。平常。

ふためかす。ばたばたと羽をならす。

ふぢ。扶持。扶持米。米の祿。

ふぢごるも。葛衣。葛布製の衣。喪服。

ふちせもいはせず。淵頼も言はせず。

淵や瀬の別なく。

ふぢなみ。藤浪。藤の花房が靡き居る様。

ふつかぢ。二日路。二日を費して行く道のり。

ふづき。文月。舊七月の稱。

ふづくろ。文机。書を讀み書きする机。

ぶつこ。物故。死ぬる事。

ぶつつかに。不束。太く丈夫に。大きく。無骨に。才能足らず。

ふつに。ふつと。絶えて。斷然。

ぶつもん。佛門。佛の道。

ふでのあと。筆跡。文字。文章。

ふでのしりとる。取筆尻。文を教へる。

ふでのすさび。筆遊。筆に任せて書く事。

ふてんのもと。普天之下。天下中。全國。

ふところやうに。懷襟。懷のやうに。

ふとどき。不届。不都合。不埒。

ふとまに。太占。上古のうらなひ。

ふとりせめたる。太貴。極めて太つて居る。

ふとわする。不圖忘。思ひかけず忘れる。

ふなこ。舟子。ふなかた。船乗。船を操

る人。

ふなて。船手。船の軍勢。水軍。

ふなもやひ。船催。船出の用意をする事。

ふなやまひ。船病。船によぶ事。

ふなよそひ。船装。船出の用意をする事。

ふにおちぬ。腑に落ちぬ。うけかかれぬ。全然安心せられぬ。合點が行かぬ。

ふによい。不如意。思ふ通りにならぬ事。

ふねにきだつくる。船に段作る。舊慣を墨守する事。

ふびん。不便。かあい相な事。

ふぶき。吹雪。吹きちらす事。

ふみしむ。踏締。しかと踏む。踏みつける。

ふみつき。文月。舊七月の稱。

ふみのはやし。文林。文章界。文壇。

ふみや。文屋。ふんや。學問する所。書肆。

ぶんげん。分限。かぎり。分際。身分。

ぶやく。賦役。人夫となつて公用に使はれる事。

ふゆかれ。冬枯。冬に成て草木の葉の枯る事。

ふゆこもり。冬籠。冬期になり家又は穴などに籠り居る事。

ふよ。不豫。天子の御病氣。

ふようほう。芙蓉峰。富士山。

ぶらいのと。無頼徒。氣儘者。ぶらつき者。

ふらう。浮浪。さまよふ事。流浪。

ふりさけみる。振難見。遙かに見やる。

ふりしきる。降頻。頻りに降る。

ふりにしこと。舊き事。昔の事。

ふりはへて。振延て。殊更に。わざわざ。

ふりみふらずみ。降つたり晴れたり。

武陵桃源。別天地。

ふりわけがみ。振分髪。左右に割つて分けたる髪(兒童に)。ふりわけ。

ふるごと。故事。古き事。古き歴史。

ふるさと。故郷。嘗て住んだ所。

ふるまひ。振舞。舉動。行ひ。饗應。

ふるめかし。古くさい。古代めく。

ふれい。不例。例ならぬ事。病む事。病氣。

へあがる。經上。位階等の段々上る事。なり上る。累進する。

兵火の慘害。戦争の爲に焼ける事。

へいげい。睥睨。にらみつける。

兵馬倥傯の世。戦にて忙しい時代。

べうえい。苗裔。子孫。

べうだう。廟堂。朝廷。

べうほう。渺茫。廣々として限りない事。

へきえき。辟易。驚き避ける事。おぢける事。

へきとう。劈頭。第一番に。

へきれき。霹靂。雷。はたたかみ。

べつげふ。別業。別荘。

へんじゆ。片時も。一寸でも。

へんすう。偏陋。田舎。

へりくだる。謙遜する。

ほ

ほい。布衣。狩衣。

ほい。本意。本心。思つて居る事。希望。志

望。

ほいなくも。無本意。本意ではないけれども。心ならずも。自分の意通てなく。

ほうえう。蜂腰。腰をれ歌。

ほうけつ。鳳闕。禁裡。

ほうたん。牡丹。

ほうれん。鳳輦。天子乗御の御車。

ほがらか。期。空の晴れ渡つて居る様。

ほぎごと。祝詞。祝言ふ詞。稱へ祝ふ詞。

ほど。反故。ほうご。文字などを書いて最早や用なくなつた紙。

ほくらう。北堂。他人の母の尊稱。母君。

ほくらく。木鐸。指導者。

ほどち。火口。火線。燧石の火を移すもの。

ほくと。北極に近い星の宿。北極星。

ほくどう。牧童。牧畜の番をして居る童子。

ほどみ。穂組。稻の穂を組合せて重れ置く事。

ほくめん。北面。院の御所の守護として召し仕はれる武士。

ほけほけし。惚けて見ゆる。愚に見ゆる。

ほこさき。鋒先。鋒の尖。烈しく打かかる事。

ほこらしげに。誇氣。自慢相に。

ほこらひて。誇つて。

ほしいままにす。縦。思ふ存分心に任せる。充分にけたらかせる(目を)。

ほしつきよ。星月夜。星夜。鎌倉山の枕詞。

輔車唇齒。互に助け合ふ事。

ほそたにかは。細谷川。谷の小流。

ほそめ。細目。細く開いた目。少し許り。

ほぞをかむ。噬臍。後悔する事。

ほだ。楳。薪木。

ほださる。被裨。からまれる。とりつかれる。束縛せられる。

ほつえ。上枝。樹の上の方の枝。

ほとばしすぞす。うるかし過す。

ほとばしる。迸。飛び出る。急に流れ出る。

ほどろ。糜の穂の長く伸びたもの。

ほどろに。斑。まだらに。

ほにいてまねぐ。 穂に出で招ぐ。尾花の穂が風の爲に人を招ぐ様に靡くを言ふ。

ほねををしまず。 不惜骨。骨惜みをしてない。苦勞を厭はなくて。

ほねををる。 折骨。苦勞する。盡方する。

ほのきく。 仄聞。仄かに聞く。

ほのくらし。 仄暗。うす暗い。

ほのしろし。 仄白。ぼんやりと白い。

ほのほの。 仄仄。ほのかに。かすかに。

ほのみゆ。 仄見。仄に見える。微かに見える。

ほひつ。 輔弼。養育政事等の助をする事。

ほふえ。 法衣。佛法の衣。僧服。

ほほゑむ。 微笑する。花が少し咲き初める。

ほまへせん。 帆前船。帆を張り航海する船。

ほんぞく。 凡俗。凡夫。無學平凡の人。

ほんち。 本地。本國。此の地。

ほんなう。 煩惱。欲心。

ほんまう。 本望。兼ての望。もとからの望。

奔命に疲る。 疲れる程奔走周旋する。

盆を傾くるが如し。 雨の強く降る形容。

ほめののしる。 やかましくほめ立てる。

ほりき。 塹。城を圍んである堀。

ほりたてごや。 堀立小屋。土を堀り柱を立てて造つた小屋。

ほれたるやうにて。 惚たる様。恍惚となつた様な心もちて。

ほろろうつ。 雉子がほろほろと鳴く事。

ほわた。 穂綿。草の穂を綿に用ゐるもの。

ま

枚擧に暇あらず。 一々數上げきれぬ。

數へ盡されぬ。

まいて。 況。ましての音便。

まうけのきみ。 儲君。世繼の君。皇太子。

まうさうざるにて候ふ。 申ませう。

まうしいれ。 申入。申込。依頼。

まうしこし。 申越。依頼。言うて來る事。

まうしぶみ。 上へ申し上る書。奏文。

まうしふらす。 申振。言ひふらす。四

方に言ひ傳へる。

まうしゆん。孟春。春の初。陰曆正月の
稱。

まうすめをそろし。申長。申されない
和馬多。口に言ひ出すも勿體ない。

まうちきみ。まへつきみ。前君。大臣、
公卿。

まうねん。妄念。みだりな念頭。

まがき。籬。垣根。垣。

まかせて。任。の通りになつて。

まがつび。禍津日。凶事の神。

まがね。真金。鐵。

まかりなる。罷成。成るを謙遜して言ふ。
相成りました。

まきがり。卷狩。四方から取圍んで獸を
狩り取る事。

まきばしら。真木柱。太きの枕詞。

まくはし。真細。真精。うるはしい。善
い。

まどはひ。目合。目と目とを合せる事。
目くばせする事。

まけじたましひ。不氣死。負けぬ氣。

まげて。枉。是非。必ず。強ひて。

まげのまにまに。任乃隨意。地方官に
任ぜられた命に隨つて。命令のままに。

まご。孫。馬子。うまかた。馬を扱ふ者。

まごころ。真心。深切。誠心誠意。

まことしやかに。實。本當らしく。

まことのきは。實際。さあいざと言ふ
場合。危急の場合。

まさきづら。真拆葛。正木。蔓草の一種
にて冬枯せぬもの。

まさきのかつら。同上。

まさぐる。間探。弄ぶ。もてあそぶ。

まさご。真砂。細小なる砂。

まさしう。正。正しく。確かに。

まさてに。正しく。確かに。

まして。況。尙更。まいて。

ましながき。真柴垣。柴垣。柴の垣。

ますかがみ。ますみの鏡。まそみの鏡。

まそ鏡。真澄鏡。清く澄みて明な鏡。

ますみのかがみ。真澄鏡。同上。

ますらたけを。益荒猛男。強男なる男
子。

またきは。夙く。早く。
 またしかるべき。未。まだ早いやうな。
 またてくひよ。瞬間。一寸の暇。
 またのひ。翌日。次の日。
 またのよ。翌日の夜。
 またま。眞玉。玉を稱へて言ふ詞。
 またるい。間怠。ダラダラしてきまりな
 い。
 まちえがほ。待得顔。待つて居た甲斐が
 あり相に。得たりかしこしと。
 まちうく。待受。待設ける。
 まちかく。間近。極く近く。
 まちつけをばす。待付座。待ちうけて
 御いでになる。
 まちとりて。待取。待ち受けて。
 まちわぶ。待詫。大に待つ。待ちきつて
 居る。
 まつぎう。末造。末期。
 まつしくらに。幕地。激烈に突進の有
 様。
 まつせのきどく。末世奇特。澆季の道
 徳が廢れた世に於ける奇特なる行。

まつだい。末代。死んだ後の世。
 まつはる。纏。からまる。
 まつりのころ。祭頃。加茂の祭(四月)
 の頃。
 まどかに。圓。まんまろく。圓滿に。
 まどろむ。目蕩。一寸眼る。
 まどろ。圓居。人が多く寄り合ふ事。圓
 居。
 まな。眞名。眞字。漢字。
 まなこ。眞名子。愛てられる子。
 まなづる。眞名鶴。鶴の一種。
 まなひのには。學庭。學校等。
 まにまに。隨。に連れて。に従つて。
 まのあたり。面。目前。めのまへ。
 まはぎ。眞萩。萩をほめて言ふ。
 まはしもの。廻者。間者。間諜。斥候。
 まはたきもせず。瞬もせず。凝視する
 事。
 まはゆき。目映。目がきらきらする。ま
 ぶしい。
 まぼらに。疎。ボツボツと。所々に。
 まぶかにかぶる。眼深に冠る。帽子を

目の邊まで被り入れる事。

まほ。真帆。順風に正しくかけた帆。

まほし。願望をあらはす助辭にして未然段に連繼す。〔行かまほし〕。

まま。間間。時々。折々。

ままに。隨。に連れて。に隨つて。の故に。と同時に。

まみゆ。見。御目にかいる。

まんちやく。瞞着。目を暗ます事。欺く事。

まんどころ。政所。政事所。

まんな。真名。まなに同じ。

まめごと。實事。本當の事。

まめたたず。不實立。まじめてない。ひらきなほらない。

まめやか。まめ。忠實。

まもあらせず。間もなく。直に。

まやかし。まぎらかし欺く事。ごまかす事。欺く事。瞞着。

まゆみ。真弓。弓をほめて言ふ。

まらうど。客人。客。

まるきばし。丸木橋。一本の丸木にてか

け渡したる橋。

まれ…**まれ**。もあれの約(山にまれ水にまれ)。(山ても水ても)。

まろほやすつたる。丸寄生摺。ほや(寄生木)を丸き輪廓にした模様を摺つた。

まろや。丸屋。茅葺等にて葺いた假初の家。

まわたるとり。真渡鳥。飛び行く鳥。

み

みあれ。御生。御成。加茂の祭。

みいくさ。皇軍。天皇の軍。日本國の軍隊。

みいつ。御稜威。天子の強く盛んな勢。

みえかうれ。見隠。見えたり隠れたりする事。

みおとりす。見劣。見ぬ時よりも見て劣つて居る様に思はれる事。

みかきもり。御垣守。禁中の御門の番人。

みかぎる。見限。見棄てる。

みかさ。水嵩。水の分量。

みかど。御門。帝。朝廷。

みぎは。水際。汀。水と陸との境目。

みぎりした。砌下。軒下。
 みくさ。水草。水に生ずる草。
 みどしおろす。御髪下す。御髪を剃られる。佛門に入る。
 みくにぶり。御國風。日本國の風俗又文學。
 みくるし。見苦。見にくい。見えがわるい。
 みげし。御衣。衣を尊びて言ふ詞。
 みこころもて。以御心。御自身の心から。
 みこしふり。御輿振。叡山の僧徒が強訴の爲朝廷に神輿をかつぎ込む事。
 みことかしくみ。畏御言。仰せ言に従つて。臣として。
 みことのり。詔。詔勅。天子の仰言。勅令。
 みこともちし。勅を承つて。勅命に依つて。
 みごろ。見頃。見るに適當な時期。
 みさかひ。見境。區別。
 みさかりに。眞盛に。方に。
 みさく。見放。遙かに見る。
 みささぎ。陵。山陵。帝王后妃の墓所。

みさををつくる。作操。體裁を作る。
 みじろぎ。身動き。身を動かす事。
 みずほふ。御修法。御祈。
 みずぼらし。衰へて他より極めて衰れに見ゆる事。みそぼらしい。
 みすみす。見す見す。見ながら。
 みぞ。御衣。御召し物。
 みそぎ。禊。河原に出てて水にて身を淨むる事。
 みそぢ。三十。みそ。
 みそなはず。見行。御覽になる。
 みだしなみ。身のもちやう。身體の注意。
 みちくさくふ。食道草。途中遊びながら歩いて暇をつぶす事。
 みちしるべ。道案内。
 みちすがら。路過。道を過ぎながら。途中。
 みちづれ。道連。旅行中の同伴者。同行者。
 みちに。途に。途中で。途上て。
 みちのく。陸奥。奥州。
 みちのため。爲道。夫々の道（人道和歌

の道音楽の道等)の爲に。

みちのり。道法。距離。道程。

みぢん。微塵。小さいほこり。メチャク
チャに小さくなる事。

みちもせにちる。道狭散。道が狭くな
る程までに物が散る。

みづえ。瑞枝。若くて精氣ある樹の枝。

みづき。瑞樹。若い樹。

みづくかばね。水漬屍。水に入りて死
ぬること。〔海行かばみづくかばね〕。

みづどき。水莖。岡の枕詞。筆。消息の
文。文字。手跡。

みづどきのあと。水莖跡。筆跡。手紙。

みつけ。見付。見張所。城門。

みつけう。密教。真言宗。

みづしり。水仕女。水し女。御厨子女。
下女。

蜜の如き。甘い。深切な。

みづはぐむ。鬩。年老いたる状。

みづぶね。水船。水を入れ置く物。水槽。

みつぼ。水泡。

みづみづし。瑞々。水々。若くて元氣あ

る事。久米の枕詞。

みつめる。見詰。目を離さずに見る。

みづもの。水物。流動體。

みづら。角髪。角子。上代男子の髪の結
方左右に分けて下げ結ぶ。

みてぐら。幣。神に奉るもの。幣束。

みとらし。御執。御弓。

みとり。看取。看病。

みとりのをみな。嬰女兒。五六歳の少
女。

みなかみ。水上。水源。上流。

みながら。皆ながら。すへて。残らず。

みなぎは。水際。汀。水陸の境目。

みなぎる。漲。水が溢れむ許りに強く流
れる事。

みなしご。身無子。孤。幼くて親がない
兒。

みなそこ。水底。水の底。

みなつき。水無月。舊六月の稱。

みなつきはらひ。水無月祓。六月三十
日に行ふ祓。

みなみをうけたる。受南。南向きの。

みなれさを。 水馴棹。水に馴れたる棹。
舟を進め遣る棹。

みなわ。 水沫。水の泡。

みにそはぬ。 身に添はぬ。身につかぬ。
身分不相應な。

みぬよし。 不見善。見ぬふり。

みのも。 水面。水の表面。

みばえ。 見映。見て映ある事。

みはかし。 御佩刀。佩き給ふ御刀。帯び
給ふ御刀。

みはる。 睜。大目をあいて見る。

みふゆ。 三冬。陰曆十月十一月十二月。

みほぎ。 御祝。祝する事。

みまがふばかり。 見紛許。見違る程。

みまかる。 身罷。死亡する。

みまし。 汝。いまし。

みみにもかけず。 耳にも掛ず。少しも
きかずに。少しも耳を傾けずに。

みみにもとめず。 耳にも止ず。同上。

みみもと。 耳許。耳の側。耳の近く。

みみをかたむく。 傾耳。注意して聞く。

みみをすまして。 置耳。傾聴して。音

の聞ゆる方によく耳を向けて。

みみをそばたつ。 峙耳。耳を立てて注
意して聞く。

みめい。 未明。夜のまだ明けぬ時。

みめかたち。 見目容。眉目容貌。

みもすそがは。 伊勢にある御裳濯川。

又天皇の御系統。

みもち。 身持。品行。妊娠。

みやうが。 冥加。神佛の加護ある事。幸
福。

みやうけん。 冥見。冥加。冥利。神佛が
冥々の中に見る事。

みやうじやう。 明星。金星。

みやうぼつ。 冥罰。神佛の下す罰。

みやうもん。 名聞。名が世間に聞ゆる事。
譽。

みやうり。 冥利。神佛の冥加の利益等。

みやこうつり。 都遷。都が他にうつる
事。

みやこおち。 都落。都から地方にさすら
ひ出て行く事。

みやこのてぶり。 都手風。都のすがた。

都の風俗。

みやびと。宮人。宮仕へする人。

みやま。深山。山。奥山。

みやまぎ。深山樹。山ノ樹。深山の樹。

みやもり。宮守。宮の番人。

みやる。見遣。遠くの方まで見通す。

みやる。宮居。神の宮の存する場所。

みゆき。行幸。天子の外に出て給ふ事。

御幸は上皇の御外出に言ふ。

みゆき。深雪。雪に同じ。

みより。身寄。親族。うから。

みるから。見る其時から。

みるべきものあり。有可見物。見るに
足るものがある。充分價值あるものがある。

みるみる。見見。見て居る中に。

みるめ。海松布。海草。

みをいるるちなし。無可容身地。隠れ
場所がない。身の置き所がない。

みをたつ。立身。出世する。立身する。

みをゆたぬ。委身。獻身。或事に充分の
力を盡す事。

む

むが。無我。我を離れる事。了簡ない事。

むかしおぼゆる。昔覺。古の事を思ひ
出だされる。

むかしかたぎ。昔堅氣。老人などがい
やに頑固な氣質を持つ事。

むかしながらの。昔其儘の。普通りの。

むかはぎ。向脛。向ふずれ。

むかはき。行膝。馬に乗る時兩股脚の前
面に垂れる被物獸の毛皮を以て製る。

むかふみず。不見向。前途の如何を考へ
ずに無暗に前進する事。

むく。無垢。雜りのない事。

むくち。無口。口數の少ない事。寡言。
容易に話をせぬ事。容易に話をせぬ人。

むくつき。恐ろしい。氣味がわるい。

むくろ。軀。身體。

無稽の誤。根據も實もない誤。

むげに。無下。誠に。非常に。

むげのため。無下民。何事もない匹夫。

むさう。無雙。類なき事。無二。

むじつ。無實。實のない事。強ひて罪に
陥れられる事。

むしのよいはなし。蟲善話。無遠慮な
話。

むしん。無心。考へのない事。考がなく無
暗に他人に金銭物品等を貰ひに行く事。

むじやう。無常。はかない事。

むしやぶり。武者振。武人としての舉
動容態。

むじゆん。矛盾。あとさきの一致せぬ事。

むずとくむ。無手組。力を入れて組合ふ
事。

むそぢ。六十。むそ。

むつかたり。睦語。睦ましく語り合ふ事。

むつき。睦月。舊正月の稱。

むつのはな。六花。雪。

むつぶ。睦。親しみ馴れる。

むなしきかほ。空顔。死んだ人の顔。

むにむさん。無二無三。脇目も振らず一
向に。

むねうちさわぎ。胸打騒。驚き不安に
思ふ時の有様。

むねと。宗徒。宗と頼む者。主なる者。

むねん。無念。残念。

むねもせきあぐるこち。胸塞上心
地。胸もふさがる様な心持。三

むやひ。もやひ。舟と舟とを繋ぐ事。

むらき。群氣。激した心。怒氣。

むらさきかかれるくも。紫雲。紫の
色を呈して居る雲。

むらさめ。村雨。時々群を成して降る雨。

め

めいど。冥土。死人の行く處。よみち。

めいふく。冥福。死者の功德の爲佛事を
營む事。追善。

名分を明にす。名と分とを明に區別す
る。

冥々の裡。暗々裡。裏面て。

めいもく。冥目。目を塞ぐ事。死する事。

めいろ。すめいろ。蘇迷廬山。須彌山。

めうがわらじ。茗荷草鞋。茗荷の織緯
て造つた草鞋。

めうしゆ。妙手。上手な人。

めうれい。妙靈。年頃。

めかく。目掛。目さす。狙ふ。

めかれせず。不目放。目を放さぬ事。注意して見て居る事。

めぐらす。廻。擬らす。[工夫を廻らす]。

めぐり。周圍。

めざす。目指。目かける。狙ふ。

めざまし。目覺。目が覺める程勇ましく花々しい。あさましい。

めしうど。召人。囚人。獄中の人。

めしどす。召具。連れて行く。

めしつかひ。召使。下女下男。

めしつき。召次。侍僕。取次。

めしとる。召捕。罪人を捕へる。逮捕する。

めしひ。盲。めくら。盲目。

めだけ。雌竹。篠竹の一種。

めたりがほ。目垂顔。下方を向き居る顔。

めづこ。愛子。愛づる子。愛して居る子。

めて。馬手。右手。

めでくつがへる。愛覆。大にほめたでる。

めでたし。結構。殊に善い。愛すべくある。賞すべくある。

めにあまる。目に餘。見きれぬ程の。大勢の。

めにものみせむ。目物見。驚かし懲してやらう。ひどい目にあはせてやらう。

めぬき。目貫。刀の柄に付き居る金具。

めぬきのぼしよ。目貫場所。めぼしい所。尤も著しい場所。

めのと。乳母。うば。子守役。

めばえ。芽生。樹の芽の生ひ初めた事。

めみえ。目見。謁見。

めみたつ。目見立。目につける。注意する。

めんさう。面相。容貌。顔つき。

めんしき。面識。面會して互に知つて居る事。

めんず。免。許す。職を解く。

めんめん。面面。各々。各自。各人。

めんむら。面目。容子。面皮。

めめし。女々。女らしい。

めもあやに。目文。目もキラキラする程。

目も驚くばかり。

めもくらむ。目もクラクラとなる。目がくるめく。目まひする。

めもくる。目も見えなくなる。

めもじ。目文字。謁。會ふ事。

めもはるに。目遙。見る目も遙かに。

めらう。女郎。女を賤しめて言ふ語。童女。

めりけん國。米利堅國。アメリカ國。

めをと。夫婦。妹背。

めをみはる。目を睜る。注意して見る。

めをむく。剝目。怒る有様。

め

もうちん。蒙塵。天子が難に遇ひ他の所に遷り給ふ事。

もがな。ありたいと言ふ希望をあらはす爲の助辭。[機會もがな] (好機會に遇ひたい者だ)。

もくぎよ。木魚。佛家が讀經の時叩く内部空なる木製の器具。

もくげき。目撃。確かに目に見る事。

沐猴^ニにして冠す。上邊は人でも心中

は人にあらざる事と言ふ。

もくづ。藻屑。海中にある藻などア屑。

もくよく。沐浴。髪を洗ひ身を水又湯にて清める事。

もどりども。潛者等。水中に潜り込む者共。

もくれい。嘿禮。口に物を言はずして敬禮を表する事。

もくろむ。目論。計畫する。

もじ。文字。學問。

もしは。若。若しくはに同じ。或は。

もしほぐさ。藻鹽草。藻草をかき集めて採る物故物を書き集める事などにかけて言ふ。

もだしがたし。嘸嘿。嘿つて居られぬ。

もちかた。持方。持久力。耐久力。

もちじほ。望潮。十五夜の満潮。

もちづき。望月。十五夜の月。満月。

もちのひ。望日。十五日。

もつけのさいばひ。設けぬ幸。思ひ設けぬ幸。僥倖。

もつたいをつける。附勿體。勿體ぶる。

容體ぶる。如何にも重大な様にする。

もつてのほか。 以の外。思ひの外。案外。とんでもない。

もてなしかしづく。 大切にして取扱ふ。

もてなす。 取扱ふ。饗應する。

もてはやす。 持映。稱賛する。譽め立てる。

もてゆく。 以行。……をしながら行く。

もどかし。 非難したい。氣にかゝる。齒痒い。

もどかる。 非難せられる。

もとだち。 本立。草木の根ぎは。

もとで。 本手。資本。

もなか。 最中。真ン中。

ものあたらし。 物新。新しい。

ものいひ。 物言。言ふ事。言葉。論争。

ものいひかはす。 物言換。互に語り合ふ。

ものいふ。 物言。何かを語る。

ものいみ。 物忌。齋戒。籠り慎み居る事。

ものいり。 物入。費用。

ものうし。 物憂。懶。心進まぬ。不快。

ものおそろし。 物恐。何となく恐ろしい。

ものおほす。 物仰。仰する。盼付ける。

ものおもひ。 物思。色々な事を思ひ廻らす事。

ものかき。 物書。書記。右筆。筆吏。

ものかは。 何物かは。何でもない。

もの變り星うつる。 物變星移。年月が經過する事。

ものぐるひ。 物狂。狂氣。さちがひ。

ものごころ。 物心。世事の意。世情。

ものさびし。 物淋。何となくさびしい。

ものしづかに。 物靜。靜かに。

ものしり。 物識。博識。學者。

ものす。 物爲。凡ての動詞の代りに用ゐらる。

ものずき。 物好。好奇心に富める事又人。

ものすごし。 物凄。物すごい。凄い。

ものつく。 物憑。狐怨靈などがついて氣が狂ふ事。

ものとして。 物として。萬物。

ものともせず。 不爲物。危険を顧慮せずして進む有様。なんともせず。

ものなもひそ。 勿思物。物を思つてはならぬ。

ものならず。 非物。なんでもない。

ものにぞあたりまどふ。 物に當惑。

大いに狼狽する事。

ものにもがなや。 源氏物語にとりかへず物にもがなや世の中をありしながらの

我身と思はむと言ふ歌に出づ凡て昔の状態に立ち返らむ事を願ふ意を示す。

ものにもにず。 不似物。譬ふるものもなく。似るものもなく。

もののあいろ。 物の差別。

もののあはれ。 物哀。物の趣。

もののあやめ。 物文目。物の差別。

もののかずならず。 非物數。比敵する事が出来ぬ。何でもない。

もののだ。 物具。道具。鉦。

もののがけ。 物怪。物氣。靈のたたり。

ものどころ。 物心。物の思ひ遣り。

もののお。 武士。武夫。

もののようにあふ。 合物用。役に立つ。

ものふりたる。 物舊。舊くなつた。古めいた。

ものほしうなる。 物欲成。何か食ひたくなる。何かほしくなる。

ものまなび。 物學。學問。

ものむつかし。 物六數。厭はしい。

ものめかす。 物物らしくする。趣をつけ

る。

ものものし。 物物。立派。仰山。大層。

ものもらひ。 物貰。乞食。

ものわらひ。 物笑。笑ひぐさ。世人の嘲り。

ものをおもはず。 使思物。心配させる。

もみえほし。 揉烏帽子。柔かにもんだ烏帽子。

門下の高足。 弟子中でえらい者。

もんだはず。 不問答。問答しない。

もんどりうつ、きる。 (翻筋斗打、切)。とんぼがへりする。宙かへりする。

もんまう。 文盲。無學。無學者。

ももしきの。 百敷。大宮の枕詞。大宮。

ももへ。 百重。幾重にも。
もよほし。 催。催す事。〔御涙の催〕。
もよほしせい。 催勢。促し集めた兵。
もよほす。 催。促がす。催促する。設け起す。
もより。 最寄。近邊。
もらひなき。 貰泣。他人の泣くに誘はれて泣く事。
もろこし。 唐。支那の唐代。唐土。
もろてにかける。 諸手馳。兩手を廣げてはしる事。
もろてのいくさ。 諸手軍。諸部隊。
もろともじ。 諸共。揃つて。一處に。
もろば。 諸刀。刀劍の身の兩側に刀あるもの。
もろはだぬぐ。 諸肌脱。兩肌をぬぐ。
もろもろの。 諸。色々の。多くの。

や

やあはせどき。 矢合時。接戦の時刻。
やいと。 やきと。炙。きう。
やいん。 夜陰。夜。夜分。

やうすあつて。 様子有。仔細があつて。
やおも。 矢面。敵前。陣頭。
やかた。 屋形。船の上の屋根様のもの。
やがて。 臆。直に。其儘。
やから。 族。親族。一族。
やくかい。 厄介。世話。介抱。
やくびやう。 疫病。えやみ。流行病。
やけがまはる。 燒廻。上等になる。
やげん。 藥研。藥種。粉碎する器。
夜光の珠。 寶珠。金剛石。
やごろ。 矢頃。矢の達すべき距離。
やさげびのおと。 矢叫音。矢が命中した時叫ぶ聲の音。兩軍遠矢に射て居る時に發する聲のひびき。
やさしげに。 恥かしげに。
やさをとこ。 優雅な男。遊惰な男。
やしや。 夜叉。獍惡な鬼神。
やじり。 鏃。矢さき。矢の根。
やすい。 安寝。安眠。
やすからずおもふ。 不安思。不安に思ふ。何となく不安心に思ふ。
やすらふ。 休む。憩ふ。

やそ。 八十。やそぢ。
やそしまかけて。 八十島掛。澤山の島がある方向へ。
やそぢ。 八十。やそ。
やたけこころ。 彌猛心。矢長心。猛しく勇むこころ。
やたけにいさむ。 彌猛男。彌猛しく勇む。
やたね。 矢種。籠にある丈の矢。
やたらと。 矢霽。無暗と。
やちどさ。 八千草。澤山の草木。
やつか。 矢束。矢竹の長さ。
やつかたりほ。 八束足穂。長い稻の穂。
やつがれ。 僕。私。拙者。
やつぎばやのききて。 矢繼早利手。矢を續けて射る事の上手な人。
やつて。 入手。植物の名。
やつやつし。 簍々。貧しい。
やどおり。 宿下。やどさがり。藪入。
やなみつくらふ。 矢並作。箭の列を整へる。箭を揃へる。
やにはに。 矢處。立ち所に。直に。

やはか。 何として。どうして。いかてか。
やはげて。 矧矢。矢を引きかけて。
やはずをとる。 取矢筈。矢を雷へて直ちに引き放たうとする様。
やぶいり。 藪入。商家などの召使の宿さがり。正月及七月十六日。
やぶみ。 矢文。文書を矢に結付け射てる物。
やへのしほぢ。 八重潮路。遙かな潮の流。遙かな海。船路。
やへむぐら。 八重葎。葎の繁つて居る事。
やほ。 野暮。下品。陋劣。無趣味。
やほぢ。 八百路。[潮の八百路] (遠隔の海地)。
やまが。 山家。山にある家。
やまかせぎ。 山稼。山に稼ぎに行く事。
やまがそだち。 山家育。山のある邊鄙の土地で育つ事。
やまつみ。 山祇。山の神。
やまとうたのみち。 大和歌道。和歌の道。
やまとなが。 大和假名。片假名。

やまことば。 大和言葉。日本語。
やまとしまね。 大和島根。日本國。
やまなみ。 山列。連山。
やまのおくののすゑまでも。 山奥野
 末迄。どこまでも。
やまのすそ。 山裾。山の麓。
やまのて。 山手。山の地方。
やまのは。 山端。山のはし。
やまびと。 山人。山に住む人。山人。
やまぶし。 山伏。山の住居。修験者。
やまふところ。 山懐。山中の籠つた處。
やまもとなる。 在山元。山の麓にある。
やまもり。 山守。山の番人。
やまやま。 山山。分量の多きを言ふ。
やまわけごころも。 山分衣。山路を分け
 行くころも。
やむことなし。 無止事。恐多い。非常
 に貴い。
やもめ。 寡婦。夫がない女。
やもり。 家守。家の番人。
ややありて。 暫くにして。
ややもすれば。 動。どうかすると。

やよ。 やあ。呼びかける詞。
やよひ。 彌生。舊三月の稱。
やらい。 矢來。竹木を縦横に粗く組んだ
 垣。
やりて。 遣手。興へる人。爲る人。巧み
 なる人。
やりど。 遣戸。上下の溝にはめて左右に
 開閉する様に作つた戸。
やりみづ。 遣水。流水を庭などに引き來
 る物。
やるかたもなし。 無遣方。仕様がな
 い。心を慰むる術がない。
やれま。 破間。破れて居る隙間。
やをら。 靜に。そるそる。

ゆ

ゆあみ。 湯浴。湯を浴む事。沐浴。入湯。
ゆいしよ。 由緒。いはれ。縁。
ゆうづう。 融通。金銭貸借の工風。頓才。
ゆかた。 浴した後に着る單衣。
ゆかり。 縁。姻戚。しるべ。
ゆきあかり。 雪明。雪の光。

ゆきおろし。雪下。山風が雪を吹きおろす事。

ゆきくられて。行暮。行くに途中で日が暮れて。

ゆきげ。雪消。雪の消える事。

ゆきぞら。雪空。雪が降らうとする空合。

ゆきつまる。行詰。もう行かれなくなる。言はれなくなる。

ゆきなだれ。雪積。山の積雪の崩れ落る事。

ゆきのまにまに。行隨。行くに隨て。行くといふと。

ゆくすゑ。行末。將來。なりゆき。

ゆくすゑをかかへて。抱行末。遙かなる前途を持ちながら。

ゆくて。行手。行き向ふ處。

ゆくへなき。無行方。行く處ない。行方ない。

ゆくりなく。不意に。卒爾に。

ゆさん。遊山。山に出て遊ぶ事。外出して遊ぶこと。

ゆしあんず。左手にて琴を弾ずる。

ゆず糸ふりたて。弓末振立。弓の端をふり立てて。

ゆどの。湯殿。風呂場。

ゆはず。弓筈。弓の兩端。

ゆばた。纈。絞り染。

ゆびのばら。指腹。指の内側。

ゆびをくつつす。屈指。指を折る。敷へる。

ゆぶくろ。弓袋。弓を入れる袋。

ゆふげ。夕食。夕の食事。

ゆふさり。夕至。夕方。晩方。

ゆふだつくも。夕立雲。夕立の雨を催させる雲。

ゆふつかた。夕津方。夕方。

ゆふつけどり。木綿付鳥。鷄。

ゆふつづ。長庚。宵の明星。

ゆふなき。夕風。夕方に浪風の静まつた事。

ゆふのころも。木綿の衣。

ゆふぼえ。夕映。夕日の光に映る事。

ゆふまどれ。夕間暮。夕方。

ゆみとり。弓取。武夫。武人。

ゆみはりづき。 弓張月。弦月。

ゆみやのみち。 弓矢道。弓矢取る武士たるものの修むべき道。武道。

ゆんぜい。 弓勢。弓の張る力。弓力。

ゆんづゑつく。 弓杖衝。戦に勞れた時など暫く弓を杖として凭れる事。

ゆんで。 弓手。右手。

ゆめさら。 夢更。少しも。

ゆめぢをたどるこち。 逆夢路心地。夢を見て居る心地。夢に道を歩む様な心地。

ゆめ……なかれ。 夢……勿。決して……爲な。

ゆめにもひとにあはず。 夢にも人に遇はず。一人でも人に遇はぬ。

ゆめにゆめみるこち。 全く夢見る様な氣持。物の確然とせぬ事。

ゆゆし。 甚しい。いみじい。重大。いまいましい。えらい。

ゆらめく。 ゆらゆらと動く。

ゆらゆるあひだに。 ゆらゆらする間に。

ゆりおこす。 揺起。揺りて起す。

ゆりかたむく。 揺傾。揺がし傾ける。

ゆりたるすきもの。 許好者。世間から許された名高い且趣味のある人。

ゆるかせにす。 忽。餘り注意を拂はぬ。うっかりする。

ゆるやかに。 緩。ゆつくり。和らかに。おだやかに。

ゆめいちの。 唯一。ただ一つの。

ゆゑありげ。 有故氣。譯があり相。

ゆゑづきて。 故付。故有げに。いはれ有相に。

ゆゑよし。 故由。いはれ。

よ

よがたり。 世語。世間話。

よこぎまのしに。 横様死。犬死。つまらぬ死にかた。

よこしま。 横様。邪。横の方に。不正。

よこてをうつ。 打横手。思ひ當る事ある時兩手を打つ事。

よごと。 壽詞。賀詞。祝ひのことば。

よさむ。 夜寒。夜の追々寒さを感じずる時候。

よしなしごと。 無由言。何と言ふ故由もない根なし言。冗談。

よすが。 縁。たより。ゆかり。

よすてびと。 世捨人。世を捨てた人。世を離れた人。隱遁家。

よせて。 寄手。攻めかける兵士。

よそがたり。 外語。己れに關係ない話。

よそにする。 外にする。顧みない。

よそめには。 餘所目。外から見る所では。

よだつ。 彌立。盛に立つ。

よつぎ。 世繼。家を繼ぐ事。

家を繼ぐ人。

よつぎがねのわご。 世繼がねの吾子。

跡取と定まつた吾子。

よつるとき。 四時。四季。

よつのふね。 四船。遣唐使の船。

よつのを。 四緒。樂器の琵琶。

よつぱひ。 匹這。兩手兩足で這ふ事。

よつびいて。 能く引いて。

よなよな。 夜夜。毎夜。夜毎に。

よに。 世。實に。

よになく。 無世。比するものなく。

よにゆりたる。 世許。世間から違入てあるとして許された。

よねんなく。 無餘念。他に心が移らず一途に。

よのおぼえ。 世覺。世間の評判。

よのさが。 世性。世間のならはし。

よのつねならず。 非世常。尋常でない。普通にあるものでない。

よのつねのさま。 世常様。世に有觸れた事。

よのまぎれに。 夜紛。夜の暗くして物の區別がつかぬに乗じて。

よば。 夜半。夜なか。

よばく。 餘白。紙の書き餘りの白い所。

よばなる。 世離。世の中を離れる。世の中に遠ざかる。俗を離れる。

よひとよ。 夜一夜。夜通し。終夜。

よひよひ。 宵々。宵毎に。毎宵。

よふく。 夜深。夜が深くなる。

よふかし。 夜を深かして寝ぬ事。

よべ。昨夜。

よほよほ。とぼとぼ。老人又は小兒などの歩み方の定まらぬを言ふ。

よまひごと。世迷言。一人てつぶやく事。

よみ。黄泉。死人の行くべき地。九泉。

よみかへる。黄泉歸る。黄泉から歸る。

蘇生する。生きかへる。再び息を吹く。

よみす。好。善みす。ほめる。愛づる。

よみぢ。黄泉。地下。よみ。

よみなぞらふ。數へ擬ふ。

よみのくに。黄泉國。よみに同じ。

よみやぶる。讀破。多くの書を悉く讀む。

よんどころなし。無據。止むを得ない。

よめ。夜目。夜見る事。

よも。四方。諸方。

よも。よもや。まさか。

よもぎがしま。蓬島。蓬萊山。

よもすがら。終夜。夜ひと夜。

よもやま。四方山。色々の。澤山の。

よよとなら。おいおいと泣く。泣く有様。

よりより。折々。時々。

よるべもなみのあらいそ。寄るべき

所もない荒い海邊。

よろづの。萬。澤山の。

よをこめて。籠夜。夜明に先立つて。夜深く。

よをそむく。反世。世を棄てる。退隱する。

よをひびつぐ。夜を日に繼ぐ。夜晝の區別なく。晝夜兼行。

よをひびかす。響世。大袈裟に世の中を響かし驚かす。

ら

らいし。來耜。鋤や鍬や。

らいせ。來世。未來の世。

らいやう。來陽。來春。

らうがはし。みだりがはしい。みだらな状がある。

らうせい。老成。大人びて居る事。

らうぜき。狼籍。みだりがはしい事。亂暴。

らうだう。郎黨。若者。從者。家來。

らうどう。郎等。全上。

らうばい。狼狽。うろたへる事。

らうばしんせつ。老婆親切。世話やき心。

らうれんなる。老練。老功の。手際よい。

らうろう。牢籠。審み苦しむ事。

らくいん。落胤。おとしだれ。貴人の私生兒。

らくえき。絡繹。連り續く事。

らくどわい。洛外。都の外。京都の市外。

らくじつ。落日。夕日。入日。

らくちゆう。洛中。都の内。京都の市中。

らくぱく。落魄。おちふれる事。

らくやう。洛陽。都。京都。

らくるゐ。落涙。泣く事。

らそつ。邏卒。見まはりの兵。巡邏兵。

らちがあかぬ。埒不明。仕事があかぬ。

らふをかむ。嚙蠟。蠟を嚙むやうに物に少しの味も趣もない事。無趣味。

らんじやう。濫觴。初。始祖。

らんどひ。亂杭。杭を不規則に地に打ち込み敵の侵入を防ぐもの。

らんもん。欄門。羅門。すかし模様ある門。

らんる。襪襪。ぼろ。

り

りうどう。流寓。こゝらつて他の地方に在事。

りうげん。流言。浮言。根據のない噂。

りうり。流離。さすらふ事。

りくがふ。六合。天地四方。

りくげい。六藝。禮樂射御書數。

りくたう。六韜。支那に於ける兵書の名。

りこん。利根。物事にさとい事。

りさう。離騷。楚の屈原の作し憂に遇ふの義。

りたつ。利達。立身。出世。

りつりやうきやくしき。律令格式。古の制度の書。

りふどわん。立願。神佛に祈禱をする事。

りふじん。理不盡。無理。不道。

りんげんあせのごとし。綸言如汗。

天子の言は一度出づれば再びかへらぬ

事。

りやう。領。衣服鎧等を數へる語。〔夏衣
ニ領〕

りやうがけ。兩掛。旅行の時天棒の兩端
に小さき行李をつけ擔ふべきもの。

りやうしう。領袖。頭立つ人。

りやうぶしんたう。兩部神道。神佛二
教を合せた一派の神道。

りよどわい者め。慮外者奴。無禮もの
め。

る

るしやなぶつ。盧舍那佛。大日如來。
大佛。

るつぼ。坩堝。金屬を熔すに用ゐる壺。

るり。瑠璃。緑の玉の類。

るゐくわ。類火。類焼の火。

るゐせい。累世。代々。

るゐせつのはづかしめ。縲紲の辱。
罪人として囚へらるる辱。

れ

れいけい。令兄。御兄様。他人の兄の尊
稱。

れいご。圍圀。牢獄。

れいさい。零碎。零々碎々。ささい。切
れぎれ。

れいそく。令息。おむすこ。他人の子の
尊稱。

れいふ。靈符。神の守り符。

れいぶん。令聞。善い評判。

れいべう。靈廟。おたまや。

れいみん。黎民。人民。

れいめい。黎明。夜のあけ方。

れいろう。玲瓏。麗はしく輝りかがやく
事。

れうげんどほり。了簡通。考へた通り。

れきれき。歴々。身分の貴い人。

れんごらのもと。螿殻の下。朝廷のあ
る都の中。おひざもと。

れんぜんあしげ。連錢葦毛。馬の葦毛
に淡く又濃く灰色の圓き斑あるもの。

ろ

ろぎん。路銀。旅費。

ろくかせん。六歌仙。在原業平・僧正遍昭・

喜撰法師・大友黒主・文屋康秀・小野小町。

ろくたか。祿高。給與せられる祿の額。

路^ろ頭^まに迷ふ。たよるものがない。

路^ろ傍^ばに徘徊す。職業がなくブラブラして居る。

わ

わいだめ。辨別。わきだめ。區別。

わうじ。往事。昔の事。

わうじやう。往生。死ぬる事。

わうじやうのみ。脆弱の身。柔弱の身體。

わうせい。旺盛。極めて盛な事。

わうねん。往年。昔。

わがどち。吾等同志。

わかなのかゆ。若菜粥。正月七日に行ふ。

わかみづ。若水。元旦に汲みとる水。

わがものがほ。吾物顔。物を自分の物に取扱ふやうに見える事。

わかゆ。若鮎。若い鮎。

和^わ氣^き藹^あ然^{ぜん}。和かな気が満ちて居る。

わきがたし。難分。辨明しがたい。

わきて。分。區別して。特別に。殊更に。

わきめもふらず。不振側目。傍の方に目も配らずに。注視して。

わぎもこ。吾妹子。女を親しみいふ語。

わくらばに。邂逅。稀に。たまさか。

わごりよ。我御料。あなた(多く婦人に)。

わごうた。謠歌。童謠。

わごくれ。しわざ。

わさだ。早稻田。わせの田。

わぎをぎ。技招。俳優。

わじやうらうたち。和上郎達。和殿上臈たち。あなたたち。

わだう。和黨。吾黨。汝等。

わたくしに。私。公てなく。自己の利のみを計り。ひそかに。

わたつみ。海神。海。

わたのばら。海原。大海。

わたらせたまふ。渡給。御出になる。日を過される。居られる。

わたりあはず。渡合。渡り進み行く。

其場に行つて戦ふ。

わたるひ。 渡日。空を經過する太陽。

わどの。 和殿。あなた。

わななく。 戰慄。恐ろしさに身が振へる。

わなみ。 吾儕。私共。吾ら。

わぬし。 吾主。汝。あなた。

わびしきめ。 佗數目。難儀な場合。なやましい場合。

わびしらに。 佗しい状に。

わびしる。 佗痴。困つて知覺を失ふ。

わびすみのところやり。 佗住心遣。

物わびしい住ひの心慰。

わらかこひ。 藁圍。藁で圍ふ事。

わらはべ。 童部。童子。

わらはやみ。 癡。えやみ。おこり。

わらびのほどろ。 糜の穂の長く延びたもの。

わらひをもらす。 洩笑。少し笑ふ。

わらふた。 圓座。藁とくさ等で編んだ敷物。

わりなく。 無理。離れがたく。道理なく。甚しく。非常に。

わりふ。 割符。符を割つて後の證とするもの。

われとおもはむものども。 吾思者等。我れ試みむと思ふ者ども。

われはがほ。 我者顔。我はと心に誇れる顔。

ゐ。

ゐけた。 井桁。井戸の縁を方形に組んだもの。

ゐこほる。 居溢。溢るる程充滿して居る。

ゐざる。 膝行。尻を地につけながら行く。

ゐしふ。 蝸集。はりねずみの毛の様に集まる。多く集まる。

ゐじん。 偉人。えらい人。

ゐつく。 居着。住み馴る。居定まる。

ゐてきにける。 率ゐて来た。

ゐなかじむ。 田舎風をして居る。

ゐのししむしや。 猪武者。無謀に進む武者。

ゐんず。 員數。數。

ゐんぜん。 院宣。院の宣旨。

みやじろ。禮代。禮として贈る品物。
 みやびつくる。作禮。禮儀を守る。
 みややかに。禮儀正しく。
 みろり。圍爐裏。爐。

ゑ

ゑかう。回向。讀經して亡靈の菩提を念
 ずる事。
 ゑがほ。笑顔。笑ひ顔。
 ゑじ。衛士。禁裏の番兵。
 ゑじき。餌食。餌とする食物。
 ゑしやく。會釋。挨拶。禮する事。
 ゑそらごと。繪空事。繪に書いた作り事。
 ゑたくみ。畫工。ゑかき。
 ゑつぼにゐる。入咲壺。笑ふ。
 ゑとく。會得。了解。合點。
 ゑびかつら。葡萄の古名。
 ゑひしる。醉痴。酔て物を覚えぬ様にな
 る。
 ゑみかほ。笑顔。わらひ顔。
 ゑみのくちびる。笑唇。花の瓣が開き
 初むるを笑ふに譬ふ。

ゑみまけて。笑設。大に笑つて。
 圓轉滑脱。流暢。頓才ある事。
 遠慮を廻らす。深く考へる。

を

をいぼん。禮盤。佛事の時導師のすわる
 座。
 をくらし。小暗。闇い。
 をこがまし。痴。馬鹿らしい。さかしら。
 をさなあそび。幼遊。幼兒の遊。兒戲。
 をさをかへたり。代校。歲月の二度と
 返す事が出来ぬを言ふ。
 をさをさ。大抵。大方。
 をしげもなぐ。無惜氣。惜い様な顔つ
 きもせずに。大氣に。
 をしへくさ。敬草。教への材料となるも
 の。
 をだ。小田。田に同じ。
 をたけび。雄健。雄々しく叫ぶ事。
 をちかた。遠方。あつちの方。
 をちこち。遠近。あつちこつち。
 をぢなし。鈍く拙い。

をとこなきになく。男泣。男ながら泣く。

をとめのとも。少女伴。小女等。

をののく。戰慄。恐れて身ふるひする。

をのへ。尾上。山の高い處。

をばりをよくす。好終。終末を全うする。完全に終る。

をひれ。尾鱗。尾と鱗。物を誇大に言ふ事。

をめきさけぶ。叫喚。高く叫び立てる。

をやむ。小止。止むに同じ。

をりから。折柄。其時に。折りよし。

をりふし。折節。其時丁度。時に。

をろち。大蛇。

ををしさ。雄々しさ。勇ましさ。

ををすげる。着緒。緒をはめこむ。

終

明治卅九年十一月十日印刷
明治卅九年十一月十三日發行

學生參考叢書
正價金拾參錢

不許複製

東京市小石川區戸崎町四十六番地

大橋省吾

發行著者
印刷者
發兌元

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
石川金太郎

發賣元 東京市日本橋區本町三丁目

發賣元 東京市神田區表神保町

東京市神田區表神保町三番地

東京市神田區表神保町三番地
名古屋 川瀨代助

特約賣捌所 大阪盛文館 吉岡平助

東京市神田區表神保町三番地

發賣元 東京市日本橋區本町三丁目 博
發賣元 東京市神田區表神保町 東
東京市神田區表神保町三番地 文
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地 武
東京市小石川區戸崎町四十六番地 堂
大橋省吾 館
石川金太郎 堂

受驗珍低
者携廉
の帶無
良至比
師便

學 生 叢 書

中學校、師範
學校、高等女
學校等に在學
せらるる學生
諸君が、日常
及び受驗準備
用の寶典たる
べき、學生參
考叢書は、專
致にして中等
教育に教鞭を
執らるる諸先
生の筆に成れ
る者なるが故
に、よく要を
摘み、精を蒐

- ▲既刊書目▼
- ◎日本地理 全一冊 志賀重昂君校閱
 - ◎外國地理 全二冊 東洋大學講師 三島定之助君著
 - ◎地文學 全一冊 理學士八卷準次君共著
 - ◎日本歷史 全一冊 東洋大學講師 三石賤夫君著
 - ◎日本史年表 全一冊 東洋大學講師 三石賤夫君著
 - ◎東洋史 全一冊 文學士丸井圭次郎君著
 - ◎西洋史年表 全二冊 文學士深澤 鐷吉君著
 - ◎西洋史 全一冊 文學士深澤 鐷吉君著

考 叢 書

各册正價拾錢
郵送料二錢宛

め、説明は親
切、文章は平
易、加ふるに
冊子は小にし
「携帶に至便
體裁は雅にし
て製本は堅牢
之を繕かば必
ず満足を表せ
らるべきを確
信す、彼の酒
酒世間に流布
する同種の書
と玉石混淆す
ること勿れ。

- ◎物理學 全二冊 理學士林 茂增君著
- ◎代數學 全二冊 理學士加藤清三君共著
- ◎三角學 全二冊 陸軍大學校教授 宮本 藤吉君著
- ◎物理學 全一冊 正則像備學校講師 山下 安太郎君著
- ◎植物學 全一冊 農學士今村猛雄君著
- ◎動物學 全一冊 農學士今村猛雄君著
- ◎礦生學 全一冊 農學士今村猛雄君著

3438
學生參考叢書

近刊書目

- | | | | | | |
|--------------------|------------------|---------------------|------------|-------------------|-----------|
| ◎國文 | ◎國文 | ◎國文 | ◎國文 | ◎國文 | ◎國文 |
| 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 | 全一冊 |
| 東洋大學講師
三石 賤 夫君著 | 東洋大學講師
安藤 弘君著 | 正則備學校講師
宮田 耀之助君著 | 理學士林 茂 增君著 | 東洋大學講師
足利 行述君著 | 文學士小倉 博君著 |

